

就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の普及

# 成果報告書



学校法人武蔵野東学園  
武蔵野東高等専修学校

平成 29 年度 文部科学省委託事業  
専修学校による地域産業中核的人材養成事業  
発達障害のある生徒など特別に配慮が必要な生徒の就労支援及び  
卒業後の定着フォロー支援の普及事業



本報告書は、文部科学省の生涯学習振興事業委託費による委託事業として、武蔵野東高等専修学校が実施した平成29年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。



## 目次

<b>第1章</b>	事業の概要	2～9
	1-1 事業名	
	1-2 事業の概要	
	1-3 目指すべき人材像	
	1-4 事業の実施期間	
	1-5 事業の実施体制	
	1-6 事業推進委員会および分科会実施経緯	
<b>第2章</b>	本校の障害のある生徒の就労支援および 卒業後の定着フォロー支援の現状	10～13
	2-1 本校の進路指導	
	2-2 今年度の状況報告	
<b>第3章</b>	就労に向けた本校の教育プログラム	14～47
	3-1 チャレンジジョブでのインターンシップの実施状況とその成果	
	3-2 校内実習の実施状況とその成果	
	3-3 農業従事研修の実施状況とその成果	
	3-4 障害のある生徒の保護者向け研修会の実施状況とその成果	
<b>第4章</b>	まとめと課題	48

# 第1章 事業の概要

## 1-1 事業名

平成29年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

『発達障害など特別に配慮が必要な生徒の就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の普及事業』

## 1-2 事業の概要

全国にある多くの高等専修学校が、発達障害のある生徒など特別に配慮が必要な生徒の受け入れをしており、その教育支援・進路指導について困惑している状況がある。過去2年間本校が大岡学園高等専修学校と連携して実施した教育支援体制に関する実態調査からも当該生徒の支援において進路指導が最も困難を極めている状況があることを把握することができた。本校は、昭和61年の開校以来、発達障害のある生徒など特別に配慮が必要な生徒に対しての進路指導について、就労支援を前面に打ち出して取り組んできた。あわせて卒業後の定着フォロー支援も継続・展開することにより当該生徒の安定した就労生活の継続を実現し、社会自立に結びつけている。また、就労支援のみならず卒業後の定着フォロー支援を展開することによって、企業および福祉事業所との強固な信頼関係を築くこともできてきている。本事業では、本校で実践している当該生徒の就労支援および卒業後の定着フォロー支援について、その取り組みをまとめ、これを全国の高等専修学校で学んでいる当該生徒の進路指導の一助となるよう普及していくことを目的とする。さらに、障害のある人が社会で生きがいをもって働けるようにするため、就労の門戸を拡大していくと共に安定した社会生活が送れるよう環境の整備に微力ながら努めていきたい。

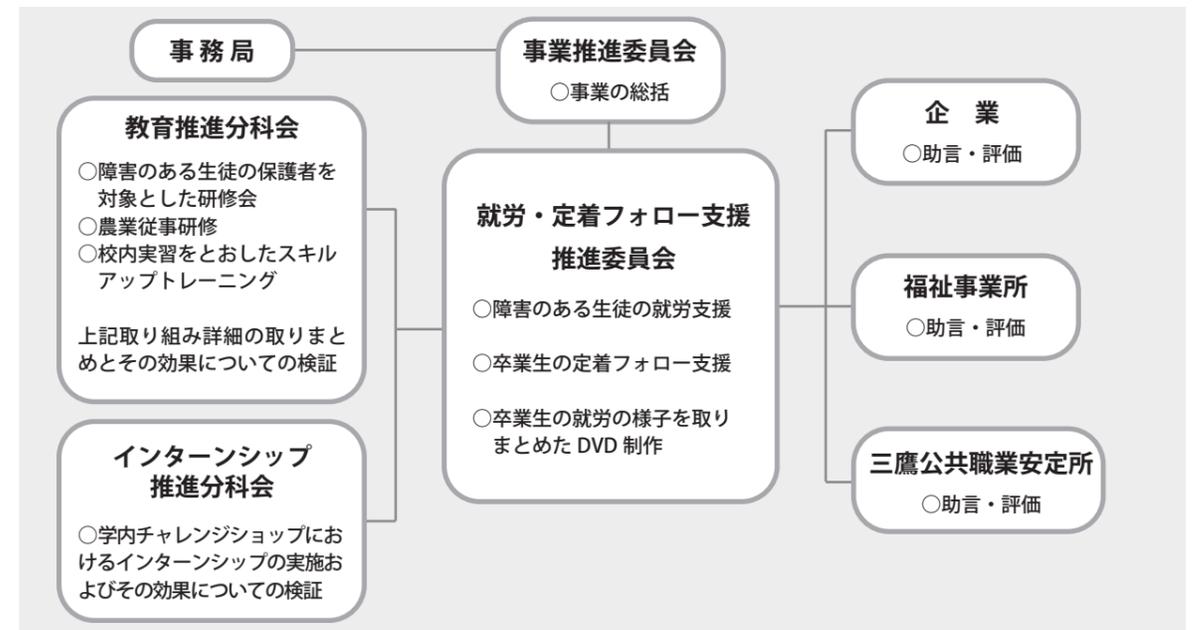
## 1-3 目指すべき人材像

発達障害のある生徒など特別に配慮が必要な生徒に対する教育支援・進路指導の体制を整備し、教育効果を高めることによって、当該生徒の社会自立につなげ、実社会において必要とされる人材として養成していくことを目指す。

## 1-4 事業の実施期間

平成29年5月8日～平成30年2月28日

## 1-5 事業の実施体制



### (1) 構成機関（機関として本事業に参画する学校・企業・団体等）

	構成機関（学校・団体・機関等）の名称	役割等	都道府県名
1	武蔵野東高等専修学校	総括・実施校	東京都
2	大岡学園高等専修学校	事業連携・協力	兵庫県
3	株式会社 パソナハートフル	助言・評価	東京都
4	株式会社 トランスコスモス・アシスト	助言・評価	東京都
5	株式会社 ナルミヤ・ワンパ	助言・評価	神奈川県
6	株式会社 ベネッセソシアス	助言・評価	東京都
7	株式会社 ワークスアプリケーションズ	助言・評価	東京都
8	株式会社 チヨダ	助言・評価	東京都
9	国立大学法人 東京大学	助言・評価	東京都
10	社会福祉法人 武蔵野千川福祉会	助言・評価	東京都
11	社会福祉法人 武蔵野	助言・評価	東京都
12	特定非営利活動法人 東京自立支援センター	助言・評価	東京都
13	三鷹公共職業安定所	助言・評価	東京都

## (2) 事業推進委員会

<目的> 事業全体の総括、委員会および分科会との連携

- <検討の具体的内容>
- ・事業の総括
  - ・事業の進捗状況についての確認
  - ・就労支援および定着フォロー支援の状況確認
  - ・事業成果の取りまとめ

<構成員>

	所属・職名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	清水 信一	武蔵野東学園 常務理事	助 言	東 京 都
2	渡辺 正司	武蔵野東高等専修学校 校長	委 員 長	東 京 都
3	今城 慎一郎	武蔵野東高等専修学校 進路指導部長	副委員長	東 京 都
4	和田 忠雄	武蔵野東高等専修学校 進路指導部	委 員	東 京 都

## (3) 就労・定着フォロー支援推進委員会

<目的> 本校の障害のある生徒の就労支援および卒業後の定着フォロー支援の推進と

企業・福祉事業所・三鷹公共職業安定所との連携

- <検討の具体的内容>
- ・障害のある生徒の就労支援および卒業後の定着フォロー支援の推進
  - ・企業、福祉事業所、三鷹公共職業安定所との連携
  - ※就労支援および定着フォロー支援にあわせて、構成機関となる企業および福祉事業所とのミーティングを重ねていくこととする。
  - ・卒業生の就労の様子を取りまとめた DVD 制作

<構成員>

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	白岩 忠道	株式会社 パソナハートフル 取締役管理統括部長	助言・評価	東 京 都
2	鈴木 英司	株式会社 トランスコスモス・アシスト 管理部部長	助言・評価	東 京 都
3	青木 日出治	株式会社 ナルミヤ・ワンパ 取締役社長	助言・評価	神奈川県
4	山口 竜	株式会社 ベネッセソシアス 稲城センター長	助言・評価	東 京 都
5	小島 豪洋	株式会社 ワークスアプリケーションズ ビジネス・サポート・インフラグループ ゼネラルマネージャー	助言・評価	東 京 都
6	吉山 真由美	株式会社 チヨダ 人事総務部課長	助言・評価	東 京 都
7	依田 晴樹	国立大学法人 東京大学 施設部 施設企画課 障害者集中雇用PT 統括マネージャー	助言・評価	東 京 都
8	鎌倉 ゆみ子	社会福祉法人 武蔵野千川福祉会 理事長	助言・評価	東 京 都
9	安藤 真洋	社会福祉法人 武蔵野 理事長	助言・評価	東 京 都

10	高森 知	特定非営利活動法人 東京自立支援センター 理事長・総合施設長	助言・評価	東 京 都
11	坂田 敦子	三鷹公共職業安定所 所長	助言・評価	東 京 都
12	今城 慎一郎	武蔵野東高等専修学校 進路指導部長	委 員 長	東 京 都
13	和田 忠雄	武蔵野東高等専修学校 進路指導部	副委員長	東 京 都
14	小林 恒雄	武蔵野東高等専修学校 進路指導部	委 員	東 京 都
15	中澤 友哉	武蔵野東高等専修学校 進路指導部	委 員	東 京 都
16	大堀 太一	武蔵野東高等専修学校 進路指導部	委 員	東 京 都
17	藤田 伸	武蔵野東学園 チロル学園管理部主任	委 員	東 京 都

※1～11の構成員（委員）については、本校生徒の就労支援および卒業生の定着フォロー支援の際に本校支援担当者と適宜ミーティングを実施し、助言・評価をいただくこととする。

※17の構成員（委員）については、勤務場所となるチロル学園が山梨県であるため、会議については、TEL およびメールでのミーティングを主とする。

## (4) 教育推進分科会

<目的> 就労に向けた教育支援の推進とその効果についての検証

- <検討の具体的内容>
- ・障害のある生徒の保護者を対象とした研修会の取り組み詳細の取りまとめとその効果について検証
  - ・農業従事研修の取り組み詳細の取りまとめとその効果について検証
  - ・校内実習を通じたスキルアップトレーニングの取り組み詳細の取りまとめとその効果について検証

<構成員>

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	篠原 聡	武蔵野東高等専修学校 教諭	委 員 長	東 京 都
2	荻村 寿浩	武蔵野東高等専修学校 教諭	副委員長	東 京 都
3	藤田 伸	武蔵野東学園 チロル学園管理部主任	委 員	東 京 都
4	壽山 博道	武蔵野東高等専修学校 教諭	委 員	東 京 都
5	大久保 英之	武蔵野東高等専修学校 教諭	委 員	東 京 都
6	廣本 郁子	武蔵野東高等専修学校 教諭	委 員	東 京 都
7	宮本 舞花	武蔵野東高等専修学校 教諭	委 員	東 京 都
8	鈴木 沙蘭	武蔵野東高等専修学校 教諭	委 員	東 京 都

※3の構成員（委員）については、勤務場所となるチロル学園が山梨県であるため、会議については、TEL およびメールでのミーティングを主とする。また、農業従事研修実施において、現地でのミーティングを行うものとする。

## (5) インターンシップ推進分科会

<目的> 学内にあるチャレンジショップを活用したインターンシップの企画・実施とその効果についての検証

- <検討の具体的内容>
- ・インターンシップにおける具体的な取り組み内容の検討
  - ・実施スケジュールおよび体験生徒の割り振り調整
  - ・インターンシップ実施によるその効果について検証

<構成員>

	所属・職名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	今城 慎一郎	武蔵野東高等専修学校 進路指導部長	委員長	東京都
2	木田 賢一	武蔵野東高等専修学校 2学年主任	副委員長	東京都
3	鈴木 真澄	武蔵野東高等専修学校 チャレンジショップ店長	委員	東京都
4	杉林 優子	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員	東京都

## 1-6 事業推進委員会および分科会実施経緯

### (1) 事業推進委員会

開催回数：6回（5月・7月・9月・10月・12月・2月）

- |     |  |
|-----|--|
| 第1回 | 平成29年5月11日（木）<br>①事業内容について<br>②委員会・分科会の開催・会議議事録作成について<br>③事業推進における留意事項 |
| 第2回 | 平成29年7月4日（火）<br>①委員会・分科会の事業進捗状況報告<br>②事業推進における留意事項                     |
| 第3回 | 平成29年9月14日（木）<br>①委員会・分科会の事業進捗状況報告<br>②事業推進における留意事項                    |
| 第4回 | 平成29年10月11日（水）<br>①委員会・分科会の事業進捗状況報告<br>②事業推進における留意事項                   |
| 第5回 | 平成29年12月9日（土）<br>①委員会・分科会の進捗状況報告<br>②成果報告書作成に向けて<br>③事業推進における留意事項      |
| 第6回 | 平成30年2月2日（金）<br>①事業のまとめおよび成果物について<br>②事業成果報告会について                      |

### (2) 就労・定着フォロー支援推進委員会

開催回数：6回（5月・7月・9月・10月・12月・2月）

- |     |  |
|-----|--|
| 第1回 | 平成29年5月9日（火）<br>①事業内容について<br>②委員の役割分担、留意事項について<br>③3年生の就労支援、卒業生の定着フォロー支援の状況確認        |
| 第2回 | 平成29年7月6日（木）<br>①3年生の就労支援状況確認<br>②卒業生の定着フォロー支援の状況確認<br>③DVD制作について                    |
| 第3回 | 平成29年9月1日（金）<br>①2、3年生の就労支援状況確認<br>②卒業生の定着フォロー支援の状況確認<br>③DVD制作について                  |
| 第4回 | 平成29年10月6日（金）<br>①2、3年生の就労支援状況確認<br>②卒業生の定着フォロー支援の状況確認<br>③DVD制作について                 |
| 第5回 | 平成29年12月1日（金）<br>①2、3年生の就労支援状況確認<br>②卒業生の定着フォロー支援の状況確認<br>③DVD制作について                 |
| 第6回 | 平成30年2月2日（金）<br>①2、3年生の就労支援状況確認<br>②卒業生の定着フォロー支援の状況確認<br>③DVD制作、成果報告書について<br>④事業のまとめ |

### (3) 教育推進分科会

開催回数：6回（5月・7月9月・10月・12月・2月）

第1回	平成29年5月22日（月） ①事業内容について ②保護者研修会について ③農業従事研修について ④校内実習について ⑤その他
第2回	平成29年7月21日（金） ①保護者研修会について ②農業従事研修について ③校内実習について ④その他
第3回	平成29年9月14日（木） ①保護者研修会について ②農業従事研修について ③校内実習について ④その他
第4回	平成29年10月20日（金） ①保護者研修会について ②農業従事研修について ③校内実習について ④その他
第5回	平成29年12月19日（火） ①保護者研修会について ②農業従事研修について ③校内実習について ④成果報告書への原稿執筆について
第6回	平成30年2月2日（金） ①成果報告書の原稿校正 ②分科会のまとめ

### (4) インターンシップ推進分科会

開催回数：6回（5月・7月・9月・10月・12月・2月）

第1回	平成29年5月17日（水） ①事業内容について ②昨年度のインターンシップの振り返り ③今年度のインターンシップのローテーションおよび業務内容 ④インターンシップの効果の検証について
第2回	平成29年7月12日（水） ①5・6月の振り返り ②9月の確認 ③効果の検証
第3回	平成29年9月13日（水） ①7月の振り返り ②10月の確認 ③効果の検証
第4回	平成29年10月11日（水） ①9月の振り返り ②11月の確認 ③効果の検証
第5回	平成29年12月13日（水） ①10・11月の振り返り ②1月の確認 ③効果の検証
第6回	平成30年2月7日（水） ①12・1月の振り返り ②2月の確認 ③効果の検証 ④分科会のまとめ

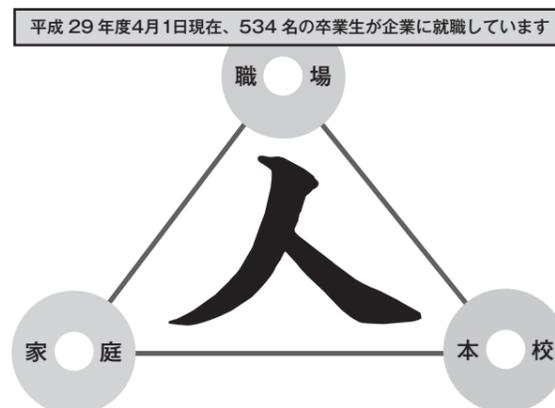
#### <会議スケジュール>

	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	3月
推進協議会	○		○	○	○		○		○
就労・定着フォロー支援推進分科会	○		○	○	○		○		○
教育推進分科会	○		○	○	○		○		○
インターンシップ推進分科会	○		○	○	○		○		○
成果報告会									○

## 第2章 本校の障害のある生徒の就労支援および卒業後の定着フォロー支援の現状

### 2-1 本校の進路指導

このイメージ図は、障害の有る無しに関わらず「働きたい人」が混在している厳しい実社会に、本校の卒業生が年々仲間入りし、そのサポートを職場と家庭、そして学校が卒業後も継続的に連携・協力していくことを意味している。



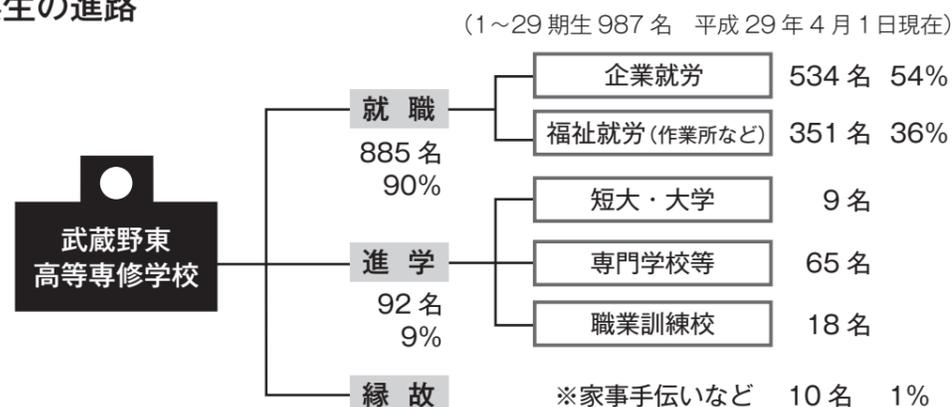
#### (1) 自閉症とは？

障害（児）者と一口に申しても、障害種を区分する手帳が「身体障害者手帳（身体障害）」・「療育手帳（知的障害）」・「精神障害者保健福祉手帳（精神障害・発達障害）」の3つ組に分かれている。本校の自閉症児はこのうち「療育手帳」若しくは「精神障害者保健福祉手帳」を取得して社会自立を目指している。以前のように、「自閉症＝知的障害」のようなアバウトな振り分けではなく、各個人の特性（個性）に応じた的確な認知が試されることになっている。

医学的には、自閉症とは「社会性」「コミュニケーション」「想像力と創造性」の3つが重なり合っている場合に診断を受ける。ところが、自閉症の症状を特定することは難解であり、それぞれ異なるために、個性としてとらえることが有益であるように感じている。

本校に在籍している自閉症児の多くは、同法人内の武蔵野東幼稚園から社会自立に向けて、段階的な教育を一斉に受けており、必要に応じて個別な指導を行うようにしている。個別な指導は、年齢には全く関係なく、必要となるときに必要なだけ行っている。

#### (2) 卒業生の進路



#### (3) 卒業後のフォロー体制

卒業後、新しい環境で就労生活を送る卒業生にとって、大切な時期が過去の経験から2度ある。1つ目は、緊張の4月を乗り切って一番疲れがでる5月頃だ。そして2つ目は、少しずつ彼らの個性から不適応を起こす現象がみられるとすると半年を過ぎ、新しい環境に慣れてきた10月頃となる。

我々は、幼稚園段階から、見逃さない指導を心がけており、これ以外に必要ながあれば何度でも職場へお邪魔して適切な指導を展開しているが、おおむね2回の定期訪問で定着することができている。順風満帆という訳ではないが、職場の方からは「いつでも相談にのってもらえるから安心」といったコメントを多くいただいている。

実際、企業就労をされたケースに関しては、定着率97%強という高い数値を保つことができている。これは、日本の障害者雇用促進策が、就職を終点として考えていた時期から、就職は通過点であるという信念を貫き、定着指導にこそ力を注いだ結果であると信じている。

#### (4) 進路指導予定

##### 【2年次】

6月	三者面談
9月	進路説明会・第一回進路希望調査
10月	職場実習開始
12月	三者面談（必要に応じて）
2月	三者面談

##### 【3年次】

4月	進路説明会・最終進路希望調査
5月	職場実習開始（内定まで）
6月	三者面談
10月	求人票・内定通知書（随時）
2月	保護者職場挨拶

この他にも、校内実習（1年次・・・1回／2年次・・・2回／3年次・・・1回）をとおして学校生活と社会生活の違いを模擬的に体験し、仕事（作業）に対する姿勢を月曜日から金曜日までの5日間、独自のカリキュラムで集中的に学ぶ時間も用意している。

また、保護者への情報提供という観点から年間8回「保護者研修会」を開き、学校生活はもとより卒業後に必要となる職場との関わり方や支援費、障害基礎年金などに関する知識などその内容はバラエティーに富んでいる。

2年次の職場実習には、体験的要素が多く含まれているのに対して、3年次のそれには採用内定をいただき社会自立していくという意識改革を完全に行うことが求められている。障害がある以上、本人ひとりの力ではなかなかそこまでの配慮はできない。そこで、本校では本人を取り巻く「職場・家庭・学校」が三位一体となって本人の能力を最大限に引き出せるような協力を心がけている。

直接的な協力として本校では、ジョブコーチ制度を第一期生から導入し、今もなお継続している。ジョブコーチは元々アメリカの制度であり、職場開拓・就労指導・就労後の定着指導といった3つの役割を異なった担当者が行うものであるが、本校では3つの役割に加えて、コーディネート・カウンセリング（職場・家庭）をひとりの担当者が担任と情報の共有化を行うことでまかなっている。

特筆すべき点は、卒業後も変わらず、三位一体の体制を崩さないという方針で取り組んでいることである。

## 2-2 今年度の状況報告

### (1) 就労支援

本校には発達障害のある生徒の進路指導担当者として5名を配置している。生徒ひとりに対して担当者は、1企業・福祉事業所での実習を実行するにあたって、①実習依頼②実習前面接③実習初日④実習中日⑤実習最終日（振り返り）と5回程度の訪問をしている。このことから発達障害のある生徒の就労支援には、時間と労力を要することがご理解いただけると思う。

今年度、本校の障害のある生徒の就労支援および定着フォロー支援の状況について担当者の出張日数および支援件数をまとめてみたところ次のとおりとなった。

担当教員	A	B	C	D	E
出張日数	157	130	122	83	105
3年生関連の支援件数	136	81	102	38	59
2年生関連の支援件数	47	16	29	11	30
卒業生の定着フォロー支援件数	136	65	33	52	57

平成30年1月末日現在

さて、今年度の発達障害のある生徒の就労支援の結果については、次のとおりとなった。

#### 【3年生】

3年生における職場実習は、就労に結びつくか否かを決定する、いわゆる採用試験にあたる取り組みである。5月中旬ごろから開始し、就労決定まで継続して行われるものである。職場実習の期間としては、平均して2週間程度となっている。1度の実習で就労決定する場合もあれば、複数回の実習を経て決定する場合もある。

○発達障害のある生徒数 44名

○企業就労 30名 (68.2%)

職種	①事務系業務	8名
	②製造業務	0名
	③物流諸業務	3名
	④小売販売周辺業務	5名
	⑤飲食店・厨房周辺業務	2名
	⑥サービス諸業務	9名
	※①と⑥を重複する生徒	3名

#### 職種についての補足

- ①事務系業務……………P C入力、ファイリング、社内メールの仕分け、シュレッダー、コピー、他
- ②製造業務……………食品、機械部品、ライン作業、印刷、製本、他
- ③物流諸業務……………荷物運搬・整理、ピッキング、DM封入、梱包、発送準備、他
- ④小売販売周辺業務……………店舗バックヤードでの販売準備、品出し等販売補助、他
- ⑤飲食店・厨房周辺業務……………食器洗浄、調理補助、店舗整備、他
- ⑥サービス諸業務……………清掃、リサイクル、クリーニング、高齢者施設等周辺業務、他

○福祉就労 8名 (18.2%)

障害福祉サービスの種類

①就労移行支援	3名
②就労継続支援A型	0名
③就労継続支援B型	4名
④自立訓練	0名
⑤生活介護	1名

○進学 6名 (13.6%)

大学 1名 専門学校 5名

#### 【2年生】

2年生での職場実習については、体験的要素が多く含まれているものである。初めて学校外での経験を積む場であり、この経験から課題を見出し、3年次の実習につなげていく意味が込められている。10月頃から開始され、全ての生徒が終了するのが例年3月となっている。実習の期間に関しては、2週間程度のものが多いが、事業所の状況によっては1週間程度のものもある。また、2年生での実習が3年生における就労を決定する実習につながる場合も少なくない。

○発達障害のある生徒数 37名

○企業における職場実習 30名 (81.1%)

○福祉事業所における職場実習 7名 (18.9%)

※2年生の職場実習は、現在も継続して展開されている。

### (2) 定着フォロー支援

今年度（平成30年1月末現在）の卒業生定着フォロー支援の対応については、上記に示した担当者の表から読み取れる。前年度卒業生に対しては、就労1年目の春と秋に定期巡回を行っており、その際に定着フォロー支援を必ず実施することとしている。卒業後2年目以上の場合には、企業・事業所から、あるいは本人・保護者からの相談要請を受けての対応が原則となっている。また、卒業生の個性を鑑みて、予防を兼ねた訪問も少なからずある。特に今年度は、前年度卒業生に対して1ヶ月、2ヶ月での定期巡回支援を取り入れることによって、安定した就労につながっている。また、最近は継続雇用をしていただける企業・事業所が増えており、在校生の就労支援と重ねて定着フォロー支援を実施する機会が多くなってきている。対応の件数については、上記担当者の出張状況表からわかるように、担当者全て合わせると343件（昨年341件）となっており、昨年度より卒業生数は増えたにもかかわらず対応件数はほぼ同数であった。これは問題事象が起きてから支援するのではなく、予防を兼ねた支援を意図的に実施することによっての成果と言えるのではないかと思う。しかしながら、同表の在校生の就労支援件数549件（昨年447件）までには至っていないものの、本校が卒業生を社会に送り出し始めてから既に29年が経過し、987名が社会に巣立っている。卒業生は、毎年増える一方で担当者も対応に苦慮している事実がある。これから先の本校の進路指導において、この定着フォロー支援には、大きな課題が残されている。

## 第3章 就労に向けた本校の教育プログラム

### 3-1 チャレンジショップでのインターンシップの実施状況とその成果

～～ Shop 紹介 ～～ (店頭でご案内している文書)

Challenge Shop  
ゆう & あい

このショップは武蔵野東学園の『職業教育』の場として開店したのですが、広く一般の皆様もご利用できますので、お気軽にお立ち寄りください。ショップでは学園在学生在が交代で店員を務めています。

ショップではコーヒーなどの飲み物、サンドイッチやカレーなどの軽食をご用意しております。また店内には在校生が制作した陶芸品、近隣の福祉作業所製のクッキー、学園の教育活動を支援して下さる企業や、個人のボランティアの方々からご提供いただいた製品が陳列されており、お求めやすい価格で販売しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。

また当学園には多数の障害児が通学しており、彼らの社会自立のための訓練の場としてもこのショップが活用されています。障害児に対する皆さまのご理解が少しでも深まるよう、ひとりでも多くの地域住民の方々にご利用くださることを願ってやみません。

支配人 今城 慎一郎 (武蔵野東学園 高等専修学校 教諭)

#### (1) インターンシップ実施状況

(平成30年1月末まで)

実施月：5～2月

実習日数：1日 (ローテーション)

実施人数：延べ 84名 (1月末現在)

全て、2学年中心



▲明るい店舗販売



▲衛生面も念入りに



▲バディによる店内の美化・消毒



▲接客にも挑戦



▲食器洗浄

#### (2) トピックス

- ・来客数……月平均 約800名
- ・レンタル棚利用者(団体) ……みどり作業所/工房 時  
デイセンター山びこ/パソナハートフル/Passport  
キーストーン/ベラドンナ/陶工房 ひでどろ/中谷さん  
新田さん/鈴木さん/ラグビー部/むうぶ舎/shop商品 (順不同)
- ・売れ筋商品……卒業生がお世話になっている福祉事業所のクッキー
- ・売れ筋食品……日替わり500円ランチ
- ・おすすめ……調理・製菓コース特製のワンコインランチ

※調理・製菓コースとの連携を始めて、早6年。昨年は、一度だけ調理・製菓コースの生徒が厨房に入り、盛り付けを行い、お客さまに提供する試みがありました。大変好評でした。

因みにメニューは【鶏の唐揚げ定食】【生姜焼定食】【豚カツ】【カレー】で、計9回実施しました。

### (3) インターンシップについて

本校ではチャレンジショップを、第2学年がバディ※1で、職業体験（1日：ローテーション）の場として、活用しています。

机上の学習とは異なり、一般のお客さまとの接点を数多く持つことで、生きた刺激を受けています。そのなかで、まず初めに学ぶのが、衛生面の管理です。調理・製菓コースに学ぶ生徒にとっては当たり前のことであっても、手首や爪の先まで洗浄し、消毒することに驚いています。

この衛生面という観点では、テーブルや椅子の消毒もあります。この消毒の手ほどきをするときに「○○さんは、どちらの手が効き手ですか？」と我々は質問します。それは、ダスターの始点が、左右で異なるからです。これにも、生徒らはまたまた驚きます。

ここまでの流れで、我々が意外なところで驚かされます。それはエプロンの後方のループに紐をとおせなかったり、後方で紐を結べない生徒がいることです。日常生活においても、ワイシャツのカフスがうまくとめられない、若しくは止める必要がないと考えている生徒が意外にも多いということです。時代かなと感じる一場面です。

衛生面の管理が完了すると、販売活動の準備をします。どのような商品があって、各々の価格がいくらであるかを、どの生徒も必死にメモしています。先輩から引き継がれることは、後の感想にもありますとおり、会計を間違わないことや、いくら売り上げたかといったことが印象的なようです。

実際に、販売活動を始めると「声が出ない!」「お客さんが来ない!!」「上手にお金が受け取れない………」「感謝の気持ちを伝え忘れてしまった!？」など、さまざまなマイナス要因がプレッシャーとなって、押し掛かってきます。1日ずつのローテーションですから、なかなか上達しません。

いきなりこの苦しい体験を『バディ』で行うことは、余りにも過酷ですので、まずはリードする側の、健常児が体験していきます。その様な体験を経て初めて『バディ』で職業体験をしていきます。意気揚々と流れを知る健常児が衛生面の手ほどきをしていきます。満足そうな表情で、販売活動に移りますと、その表情が陰り始めます。リードされるはずの自閉症児の方が計算を得意としていたり、元気よくお客さまに声をかけたりする姿に健常児は、愕然とするのです。そして、その声に引っ張られるように、自然と二人の声が店頭に響き、多くのお客さまに購買していただけています。

何クールか体験していく生徒を見ていると、【あっ!!何かをつかんだな!成長したな!!】と感じるときがやってきます。その辺りから、精算活動や片づけに笑顔が覗き始めます。そして最高の笑顔が見られるのが、賄を食べるときです。学校生活では必ず12:30に給食を食べますが、チャレンジショップでは、その一時間後となります。お腹が空いていることもあるのでしょう、普段とは異なるメニューであることもあるのでしょう、とても嬉しそうに「労働の後のご飯は、とてもおいしいです!鈴木先生、ご馳走様です!!」と、この体験をまたしたいといった気持ちがひしひしと伝わってきます。職業教育を担う本校としましては、大変有意義な時間のひとつと言えます。

※1… 健常児と自閉症児による1対1のペアであり、このバディを一つの単位として学校生活のさまざまな活動に取り組みせていくのがバディシステムとなります。このバディシステムこそが、生徒たちに混合教育を理解してもらおう大きな役割を担っていると考えています。

### (4) 生徒の感想文

#### 2年A組 M君

私は、2年生になってからチャレンジショップで働くということを何度か体験させてもらいました。その中で学ぶことが沢山ありました。

お店の外での販売をさせていただいた時に、お客様一人ひとりへの対応の仕方や呼びかけなど普段の学校の中では体験できないようなことをさせていただき、その中でも、特にお金の重みと接客が印象に残りました。

1回目の販売の時に金額が合わないというミスをしてしまい、その時に仕事では少しのミスでも許されない、そしてお金の重みは1円も1000円も一緒だと感じました。そこで、私はお金の大切さに改めて気付くことができました。

そして、接客では対応の仕方が大切だという事も学びました。ご年配の方には分かりやすく丁寧に、若い方には明るくなど対応を変えることにより、近くにいた方も興味を持ってお店に来てくださいました。お客様が来てくださると、とても嬉しく、その瞬間にとてもやりがいを感じました。

今回このような貴重な体験をさせていただいたことをとても感謝しています。ありがとうございました。

#### 2年A組 Hさん

私は2年生になり北原記念館にあるチャレンジショップで販売の体験をさせてもらいました。2人で1組なのですが、私は大きい声を出す事が苦手で、初めて行った時は呼び込みは相手に任せ、自分はお金の計算や商品を袋に詰める作業に逃げてしまっていました。

しかし回数を重ねるたび、大きな声を出して呼び込みをするのに抵抗がなくなり呼び込みができるようになりました。お金の計算も大変で、お釣りの間違いがないように落ち着いて計算をしなければならないのですが、お客さんが沢山いらっしやって忙しくなると慌ててしまいます。他にも伝票を書くのですが、これも忙しくなると書き忘れてしまったりするのでこの2点は直していきたいと思っています。

チャレンジショップでの体験は盆踊りや小学校での行事の時もあり、そちらにも参加していろいろな体験をさせてもらっています。紫峰祭以外ではお客さんと接しながら販売や接客をすることができないのでとても良い勉強になっています。これからもチャレンジショップでのインターンシップがあれば頑張りたいと思います。

#### 2年A組 Kさん

2年生になって暫く、初めてチャレンジショップに派遣されました。行く前に「ワゴンで接客をします。」とだけ情報をいただきましたが、学園祭などで接客経験はあったため、何とかなるだろうと気負いすぎることもなく、チャレンジショップへ向かいました。

しかし開始してから10分。その時点でまだ商品は一個も売れていませんでした。胸中は不安でいっぱい、こんなに売れないものなのかと接客業の厳しさを見せつけられました。

多くの人が店の前を通り過ぎ、声を出すのが億劫になってきた頃、優しいお客様とご縁があり、商品をお買い上げいただきました。お客様第一号。同時に出てきたのは安堵と喜び。不安と躊躇いは吹き飛びました。そ

れからは、ともかく声を出しました。全員に反応をしてもらえるような確実に届く声。その後、軌道にのり、一回目チャレンジショップは幕を閉じました。

何度も経験したチャレンジショップ。気を付けることは変わりません。元気な声で伝える。

## 2年A組 K君

わたしがチャレンジショップで学んだことのひとつに、お客様との関わり方があります。関わり方といっても色々ありますが、私が今回学んだことは、お客様の呼び込み方です。

私の祖父母の家は八百屋を営んでいます。私は時々祖父母の家に行ってお手伝いをするのですが、そこでの手伝いは野菜の補充や野菜をしまうことと、いらっしゃったお客様をもてなすというものでした。祖父母の店ではいらっしゃったお客様の相手をしていましたが、チャレンジショップはお客様の方からお店に来るのではなく、自分からお客様を呼び込むというものでした。やったことのない対応に、初めはどう話しかけてよいかかわからない状況でした。しかし、チャレンジショップの方々に声のかけ方を教わったことで、どのように話しかければよいかかわかり、お客様に商品を買っていただくことができました。私は人と話すのが苦手ですが、チャレンジショップの方々にいろいろと教えていただいたことで、人と話す時にぎこちなくならずに話しをすることができるようになりました。色々なことを学べた良い機会だったと思います。

## 2年B組 I君

私は12月になって初めてA組の友達とチャレンジショップに行きました。4,450円という売り上げを出しました。当日は、なかなかお客さんが来てくれずに、心が痛くなりました。でも、他の日もこうなのかなと思いました。初めてなので緊張のせいもあるかもしれませんが、接客ではレジ袋の渡し方でお客さんに対して失礼なことをしてしまったりと、非常識な行動をしてしまいました。他にも、お客さんが迷っているのにかごを差し出したり、選んでいる途中で会計を始めたり、お客様への掛け声が被ってしまったり、笑顔も上手く作れませんでした。反省がたくさんあります。普段から物事に対して考え、感じられていれば、直せた部分があったと思います。この反省を活かし、いろいろなことに興味を持ち、普段の生活の中から学べる自分にしていきたいと感じました。

## 2年B組 M君

先日、私はインターンシップ経験でチャレンジショップに行かせていただきました。チャレンジショップで行った仕事は、クッキーやお菓子の店頭販売です。この店頭販売体験で大変だったことは、人通りが少ないなかでの呼び込みです。通った人全員に声を掛けました。しかし、全員が足を止めてくれるわけではないし、足を止めていただいても必ず買っていただけるわけでもありません。もうひとつ大変だったことは、お金の計算です。100円や50円単位の計算なら暗算でもできますが、チャレンジショップの商品は、10円単位の計算もあるので大変でした。日常生活のなかでなら簡単に解ける計算でも、絶対にミスをしてはいけないというプレッシャーの中ではとても大変でした。仕事に対する責任を考え学ぶ機会となりました。

## (5) 考察

先輩から引き継がれる、2学年恒例の【チャレンジショップにおけるインターンシップ】。

すべての生徒が、とても楽しみにしています。

生徒専用のレジスターを導入した時期もありましたが、どうしても計算が合いませんでした。事前にレジスター教習を行いました。レジスターの操作に必死で、接客や商品提供が疎かになり、混乱するだけで時間が過ぎていきました。

どうすれば、お金のミスが減るか？先生方と考えて、独自の手書き伝票を準備したのが昨年度から。格段にミスが減りました。先輩からの大切な贈り物となっています。「これを使えば、大丈夫だ!!」という励ましが聞こえてくるような伝票。

インターンシップは遊びではない、実際にお金をいただいている【プロ】として、販売活動をしていくのだという意識が、回を重ねるごとに育っていきます。その原動力になっているのは、Sh o pで食事をとり、学校へ戻る時に持ち帰る『独自の売上傳票』を元に報告するときの、誇らしさなのではないかと推測しています。「私たちはミスなく、こんなに売り上げた!」、「お客さまから、元気が良いね!ありがとうと言われたこと」が、本当にうれしかったのが感想文からもうかがえます。

このSh o pができてもう少しで丸12年。

Sh o pは、自分たちのお店である。2年生が中心に、インターンシップができる。

座学よりも実学を好む生徒たちであるからこそ、職業教育を求めているはず。次年度以降も、伝統を継承しつつ、このインターンシップを輝かせていく所存です。

## 3-2 校内実習の実施状況とその成果

1年次に1回、2年次に2回、3年次に1回行われる一週間の作業週間である校内実習では、終日作業を集中的に行うことで、さまざまな職場環境に適応する力を培っている。基礎的な作業練習から、実際の受注作業まで幅広い作業を経験することによって、さまざまな作業技術を身につけ、また、実際の職場環境を疑似体験することによって、生徒たちは社会人としての心構えやマナー・職場で必要なコミュニケーションを学んでいく。

## (1) 各学年の目標

### <1学年>

- ・卒業生の先輩たちの働いている様子を映像で見て、労働についての知識を得る。自分の働く姿を想像し、作業意欲を向上させる。
- ・正確な作業を心掛ける。
- ・報告・伝達を行う。

### <2学年>

- ・ 職場実習に向けて、社会人として必要な体力を身につけ、心構えやマナーを学ぶ。
- ・ 職場実習に向けて、個々の課題の確認、克服に努める。
- ・ スピードを意識して作業を行う。
- ・ 報告、相談、伝達する力をつける。
- ・ 状況判断力を身につける。

### <3学年>

- ・ 職場実習に向けて、社会人として必要な体力を身につけ、心構えやマナーを学ぶ。
- ・ 職場実習、就労に向けて、個々の課題の再確認、克服に努める。
- ・ スピードと正確性を意識して作業を行う。
- ・ 報告、相談、伝達を確実にを行う。
- ・ 状況判断力を身につける。

## (2) 平成 29 年度の実習日程

- <1学年> 12月 4日(月)～ 8日(金) 5日間
- <2学年> 5月 8日(月)～ 12日(金) 5日間  
9月 25日(月)～ 29日(金) 5日間
- <3学年> 4月 24日(月)～ 27日(金) 4日間

## (3) 平成 29 年度実施内容

### <1学年>

- ・ 卒業生の職場での様子(映像)鑑賞
- ・ 計数・丁合い練習
- ・ 結束機の使い方練習 ・ 菓子箱組立
- ・ スーパーのビニール袋への封入
- ・ チラシ計数、袋の計数、検品
- ・ 1点封入、段ボール箱作り、梱包



▲ チラシの計数



▲ 菓子箱の搬出



▲ チラシの封入

### <2学年>

- ・ 封入物、封筒計数、2点封入
- ・ 封緘
- ・ 区分け(市町村別)、ラベル貼り
- ・ キャラメル包装
- ・ 段ボール箱へ梱包
- ・ 冊子計数、帯どめ、箱詰め、梱包
- ・ 結束
- ・ 菓子箱組立
- ・ 計数・丁合い練習



▲ 封緘の計数



▲ 封緘(2点封入)



▲ 封入物の検品

### <3学年>

- ・ 封入物の計数
- ・ 2点封入
- ・ 封緘
- ・ ラベルシール貼り
- ・ 帯どめ
- ・ 冊子の計数
- ・ 段ボール箱への梱包



▲ 帯どめ



▲ 2点封入



▲ 箱詰め・梱包

## (4) 生徒の感想

### 1年Aさん

僕はこの5日間という短い様でとても長い期間に行われた校内実習を通して、自分の課題となる点をはっきりと分かってきました。自分の課題、それは2つあります。

1つは、長時間の作業に集中できていなかった事です。作業の途中で集中が途切れてしまい、作業が止まったり近隣の友達と話してしまったりしました。作業のペースが遅くなってしまうと良い事は1つもないので、次回の校内実習では最後まで集中して取り組みたいと思います。2つ目は声の大きさです。今回の校内実習ではあまり大きい声で返事や会話、挨拶ができていなかったため日頃からできるだけ大きな声で挨拶、返事ができるようになっていきたいです。

逆に良かった点として挙げるのは、正確に作業ができていたことです。他の人と比べてスピードが遅いことはあったものの、作業の丁寧さや正確さは誰にも負けていなかったと思います。今後の手伝いなどでも丁寧さ、正確性は大事にしていきたいです。

今回の校内実習を振り返って、良かった事はこれからも継続し、課題になった事はしっかりと直していき、次回は今回以上により良い実習にしたいと思います。

### 1年Bさん

5日にわたる実際の仕事を模した校内実習。感想を一言でいうと、疲れた。しかし、その苦労に見合った達成感を得ることができ、実習中、先生に普段より報告や相談ができたり、積極的に仕事をもらったりと自分でも少し変わったと思えた。

今回の実習で嬉しかったことや悔しかったことがいっぱいあった。特に一番経験として残っていることは、配達の手伝いに行ったことだ。3日目、選抜された人たちが作ってくれた食品を入れる箱の積み込みが終わったときに、S先生から配達の手伝いに行くようにと呼ばれた。まさか配達の手伝いに抜擢されるとは思ってもいなかった。受注先に搬入することになる。つまり、職場の方々と会うことになるのだ。ここで失敗をして、職場の方に恥ずかしい姿をみせたくない。緊張してきた。とにかく挨拶することと、積極性あふれる行動を意識した。初めて会ったときに「今日はよろしくお願いします」、箱を渡す際に「お願いします」と大きな声で発して、1つひとつの仕事が終わったら素早く次の仕事を貰いに行くという形で、この仕事に対する熱意を行動に示した。箱を届けるだけでなく、後に控える箱作り用のダンボールを送る仕事もした。仕事が終わった後、先生から「頑張ったね」と褒められた。良かった。達成感が得られて、抜擢されたことに誇りを持てた気がする。

こういった実際の職場で、手伝いという形であったとしても仕事できたことは大変良い経験になった。挨拶が普段より出来るようになったり、仕事に積極的になれたり自分でも変化を感じる事が出来た。この変化を来年の校内実習に向けてキープしたい。

### 2年Cさん

2年生の校内実習は2回あり、1回目は5月に、その次は9月にありました。

1回目の実習では、計算・封入・キャラメル包装などをやりました。封入をするのが速い友達がいたので、作業を分担し、僕は計数や部材を取りに行ったりと友達のサポートをすることができました。全体的に作業のペースは遅くはなかったのですが、頼まれていた作業の量が多く、実習中の1週間で終わらせることができませんでした。ですが、次の週の放課後などを使い、学年全体で協力し合い、何とか終わらせることができました。手伝ってくれた友達には心から感謝しています。

2回目の実習では、前回より量は少なく、大変ではありませんでした。ですが、ハガキを都道府県別、市区町村に仕分ける作業はとても頭を使う作業内容でまた違った大変さがありました。2回目の実習よりも1回目のほうが大変だったのですが、その分学べることも多くあり良い経験になりました。

また、1年生の頃は「あれだけ働いたのに賞与はこれだけか…」と思っていた気持ちが、今では「あれだけの経験をさせてもらっているのに給料ももらえていいのかな」という気持ちになりました。

### 2年Dさん

5月と9月に校内実習がありました。まず5月の校内実習でやった作業は、ビニール計数と2点封入とキャラメル包装です。ビニール計数と2点封入は、結構簡単にできましたが、キャラメル包装はすごく難しかったです。結局5月の校内実習が終わるまでキャラメル包装をうまくすることはできませんでした。9月の校内実習では、チョコレートの箱作りとラベル貼りとキャラメル包装をやりました。チョコレートの箱作りは、線通りに折って箱を作っていく作業です。私は、箱と蓋を作ったのですが、両方ともうまく作れることができました。ラベル貼りは、シールを真っ直ぐに貼るという作業です。最初はうまくできませんでしたが、やっていくうちに少しずつうまくできました。9月の校内実習で最も頑張ったのは、5月にやったキャラメル包装です。5月は最後までうまくやることができなかったので集中してやりました。そしたら段々とコツが掴めてきてうまく包装ができるようになりました。とても嬉しかったです。私が5月と9月に校内実習を経験して学んだことは、どんな作業でも集中して取り組めばうまくやれるようになるということです。来年の最後の実習も頑張ります。

### 3年Eさん

今年、私は最上級生。後1年で卒業です。この4日間の校内実習が最後となりました。

作業での内容は、主に封入と封緘、ラベル貼り、そして帯留めなどをやりました。

自分が主に頑張った作業は、ラベル貼りと帯留めです。ラベル貼りでは中心を合わせてまっすぐにして貼り付けました。初日から先生に褒められました。その次は帯留めです。最初はなかなか留められず、ゆるくなりがちでしたがT先生のアドバイスによってしっかりとキツく留められるようになりました。上司のアドバイスは絶対聞いてすぐ実行することが大切だと改めて実感しました。

自分はこの3年間の校内実習で様々な失敗や困難を乗り越えて仲間と協力して作業することを学びました。今年の6月の中旬から職場実習があります。この校内実習で学んだことを活かして職場実習に臨みたいと思います。

### 3年Fさん

3年生最初、そして最後の校内実習。大きなミスをする事なく、仕事をやり終えることができました。仕事の量は非常に多く、全部できるかどうかとても不安でした。資材を前に、49,000部あると説明を受けたときにはその多さに目を見張りました。それでもやりきることができたのは、今までの積み重ねがあったからこそだと思います。

初めての校内実習では、訳も分からず、これからこれが役に立つ時があるのだろうか、成長することができるのか、と不安で仕方ありませんでした。最初はミスもありました。しかし、取り組んでいくうちにスピードや質があがり、成長することができました。そして、校内実習で行ったことが職場実習に繋がっていきました。校内実習は終わってしまいましたが、これらの経験を職場実習で活かし、無事に就職ができるように頑張ります。

### (5) 校内実習からの学び

校内実習を初めて行う1年生については、まず卒業生の働いている様子を映像で見せそのなかからさまざまな仕事についてのイメージを植えつけさせるようにします。

実際の校内実習を通じ、計数トレーニングや丁合いなどの練習はもちろんのこと、外部の会社から依頼を受け正確さを重視するよう生徒一人ひとりに働きかけ意識させています。また、本物の仕事をするため仕事に対する責任感が生まれ、目標の数(受注を受けた数)を完成させたときには達成感も生まれてきます。

校内実習中は意識的に担当教員を呼ぶときは「〇〇さん」とし、職場担当者として呼ぶようにし、より職場に近い状況を作り出しています。もちろん報告・連絡・相談(報・連・相)は仕事の基本なので、1年生の頃から校内実習だけでなく日々のホームルームや学校生活のなかでもその大切さを話し定着させるようにしています。

仕事の失敗については全体に影響をおよぼすものでもあるので、必ず担当者に報告することを習慣にさせるようにします。例えば、封筒にラベルを貼る位置がズレてしまった場合、紙を折る位置を間違ってしまった場合、計数を間違った場合、商品を汚してしまった場合などのミスについて、素直に報告した場合は咎めるより報告できたことを評価するようにして、報告を定着させるようにしています。ただ、当然間違いは良くないことであるということも合わせて説明をします。

3年間でトータル4回の校内実習のなかで学んだ教訓を忘れず、仕事に対して取り組む姿勢が身につく、校外での職場実習の時その力を発揮することができます。その他にも数多くのことを座学でなく作業学習という体験から学ぶことができます。

今年度も作業に対する意識・意欲の向上、個々の課題の確認・克服に繋げることができ、職場実習、さらには就労に向けての準備が進められました。スキルを身につけるだけでなく、実際の職場で通用するために社会性も伸ばし、生徒の個性に合わせた職業教育を今後も実践していきます。

## 3-3 農業従事研修の実施状況とその成果

### (1) 農業従事研修の概要

本研修では、「自然に親しみながら規律正しい集団生活を送るとともに、農業体験を重ねることにより農業分野での就労の可能性を追求すること。」を目的としている。本研修は、平成21年度から始めた取り組みであり、本年度で8年目である。具体的には、地元のNPO団体と連携し、都市部では実施困難な継続的な農業従事体験を、南アルプス市という古くからの果樹産地において、農繁期を中心に、本校に在籍する自閉症児が自然に親しみながら行っている。果樹栽培や果樹加工業で『おやてっと(甲州弁で「農業の手伝い」)』に取り組みせていただいていた。最近では野菜作りや稲作も行うようになり、働く基盤作りを行ってきている。

### (2) 農業従事研修の現状(29年度)

- ・対象生徒 本校の中～重度の自閉症の障害のある生徒 計44
  - ・実施時期 4月～9月の間に、計3回の研修を実施
  - ・実施日数 1学年 2泊3日 2,3学年 3泊4日
  - ・宿泊場所 南アルプスチロル学園 山梨県南アルプス市芦安
- ※本学園と南アルプス市との間で占有使用契約を結んでいる。



南アルプスチロル学園

### (3) 本年度の活動内容および参加した生徒の感想

<第1回>5月23日(火)～26日(金)3泊4日 2年C組 15名



▲薪運び



▲ハーブ園除草作業



▲田植え



▲除草作業



▲さくらんぼ園草刈り



▲イチゴのへた取り



▲苗棚洗い

### 2年C組 Aさん

僕は5月23日から26日まで農業従事研修に行きました。

1日目はチロル学園のハーブ園の草取りと薪運びの作業をしました。軍手をつけて、草をいっぱい取りました。薪は重かったけど頑張りました。2日目は田植え作業をしました。田植えは足元が冷たくて、少しムニムニして気持ちよかったです。バランスを取るのが大変でしたが、楽しかったです。その日の夜はマシュマロを焼いてクラッカーとチョコレートで挟んで食べるスモアを作って食べました。スモアはとてもおいしかったです。

3日目は午前中にさくらんぼの木の下で草刈りをして、午後からは加工場でイチゴのへた取りの作業をしました。僕は手先が不器用なので、イチゴのへた取りの時にイチゴを強く押しすぎて傷つけてしまいました。少しずつ上手にできるようになりました。4日目はチロル学園の周りや建物内の清掃を行いました。

僕は今回いろいろなことを体験したことで、いつも農作業に携わっている農家の方々の苦勞が良くわかりました。来年も農業従事研修でたくさん仕事や作業を頑張りたいです。

### <第2回>7月4日(火)~7日(金)3泊4日 3年C組 14名



▲ラベンダー花びら取り



▲さくらんぼの軸取り



▲さくらんぼ種取り



▲田んぼ草取り



▲除草作業

### 3年C組 Bさん

初日はラベンダーの花びら取りをしました。花を優しくもぐのが大変でした。「これがラベンダージャムになるのか〜」と思いました。

2日目はまず、さくらんぼの軸取りをしました。その後、さくらんぼの種取りをしました。ホチキスのようなもので種を取りました。それからかき氷を食べさせていただきました。すごく美味しかったです。

3日目に印象に残っていることは田んぼの草とりです。午前中、私は地面の草とりをしていました。午後からは田んぼに入りました。はじめは草をうまく抜けませんでした。しかし、途中からうまく出来るようになりました。やはりやっていくとうまくなるんだなと思いました。夜の自由時間には3日間の写真のスライドショーをみせてもらいました。3日間を振り返ることが出来て良かったです。最終日も頑張ろうという気持ちになりました。

農業従事研修は非常に良い思い出です。

<第3回>9月26日(火)～28日(木) 2泊3日 1年C組 15名



▲ 除草作業



▲ 稲刈り



▲ 馬掛け



▲ 庭清掃



▲ 長靴洗い

1年C組 Cさん

私は、今回の農業従事研修で、実際の仕事というものを経験しました。最初は草抜きから始まり、初日は草抜きのみで他の事は一切やりませんでした。シンプルですが、とても大変だという事がわかりました。草抜きをしないと、その場所に苗を植えることができずに困ってしまいます。とてもシンプルな仕事である草抜きもただ抜くだけではなく重要な仕事なのです。だから、私は一生懸命草抜きを頑張りました。

また、2日目には刈り取った稲をひもで結び、干して乾かすために棒に引っ掛ける「馬掛け」という仕事をしました。馬掛けを初めて体験した時に、全然上手く掛けることができず、「やはりこれは器用な人しかできないのか」と思っていました。実際に田んぼで働く農家の方々からアドバイスをもらい、そのとおりにやってみると上手にでき上がり、慣れてくるとほめられることがありました。人から何かを教えてもらうことで、自分のなかでも自信が付き、次はそれを誰かに教えるところまでいけたら、成長したと言えるのかなと思います。

今回の農業従事研修で、自分の頑張る気持ちがあれば、どんなことも乗り越えられるということを学びました。これからもこの気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思います。

(4) 教育的効果－1

農業従事研修では、主に田や畑などでの屋外活動が多く、生徒たちは開放的な環境でのびのびと作業に取り組んでいる様子が窺える。自閉症児にとって、土をいじることや自然と親しむことはストレスを解放できる場所でもあるようである。特に除草作業などは、作業が進むことによって、綺麗になっていく様子が分かりやすく、

仕事の先や終わりが見えやすいことから彼らにとって力を発揮しやすい仕事である。

また、座って行う手先の細かい作業ではなく、広々とした場所で、体全体を使いながらの作業は時間が経つのが早く感じられ、知らず知らずのうちに長時間での立ち作業に従事することになる。それによって就労に必要な持久力や忍耐力が自然と向上される。実際に農業従事研修参加を境に、校内でも長い時間の作業や活動でも、集中力を持続できたり、諦めずに強い気持ちを見せたりして最後までやりとおす姿が見られるようになる。

ときには屋内の加工場などでの仕事を手伝わさせていただくこともある。加工場での作業は実際の工場で働く方たちの横で作業をやらせていただくことで自分たちの取り組んだ仕事が、どのような形で完成していくか、ジャムなどの日ごろ目にする多くの食品がどのように作られていくのか、その過程を目にすることができ、もの作りの仕事への理解や興味が進む。また、果実の種取りなど、重度自閉症児が集中して取り組みやすく活躍の場となる仕事など、仕事の幅が広くそれぞれの生徒に合った仕事を提供しやすい。加工場での経験の後に戻った宿舎でジャムを見ると、「今日作ったのと一緒にです」「私たちが作った箱に入って売られています」などと話す生徒もいた。また、東京に戻ってしばらくしてから、保護者とデパートに買い物に行った際に、「この箱は僕が組み立てた箱に似ているね」などと、目に入るものの多くが「誰かの仕事で作られたもの」として意識されるようになる。

農業従事研修では、全てが疑似体験ではなく本物の体験ということもあり、興味をそそられ、本物を扱うこととの緊張感から、学校での活動以上の集中力を発揮することや、意外な才能を発揮することがある。細部や力の入れ具合に気を使い、商品を丁寧に扱う意識が伴わなければならない作業（果実の収穫、稲とひえの区別、苗の取り扱い、果実の選定、花卉選定など）、高所での作業（サクランボなど果実の収穫）、刃物など取り扱いに気をつけなければならない作業（ひえ、雑草などの刈り取り、薪割り、開墾作業、サクランボの種取りなど）や、体全体を使う作業や大まかな作業（開墾、稲・藁・雑草運び、稲干し、藁撒き、除草作業、マルチ貼り、サクランボの種取り、箱の解体、箱作りなど）があり、それぞれの課題や個性に応じた作業に取り組むことができる。また、全員が1つの作業の過程のどれかに必ず関わることができ、作業終了・完成に貢献することができる。これらによって、農業従事研修では自信・達成感・一体感・自己肯定感などを校内での活動以上に得ることができる。

また、農業従事研修では家庭や学校での手伝いから仕事へと昇華をしていく過程を実感させることができる。日ごろからさまざまな手伝いに取り組んでいても、同じような活動を仕事としてとらえたり、手伝いで得た経験が即仕事に結びつくような体験をしたりするまでには時間がかかることが多い。しかし、農業従事研修ではお手伝いの基本となる単純作業（取る、置く、運ぶ、移動する、押さえる、渡す、受け取る、出す、しまう、洗うなど）だけでも実際の農作業として行えることも多く、また、対象となるものが農作物（食べ物や草木）ということもあり作業の部材などに比べ、親しみやすく、より自然に扱うことができるため、日ごろのお手伝いと同じように取り組みながら実際の仕事を行うことができる。

これらの教育的効果から、まさに「おやっ」と仕事をしに行く可能性の大きさを感ずることができる。さらには、この農業従事研修を通じて就労に向けてのトレーニングが試されているということができる。

## (5) 教育的効果－2

この農業従事研修の大きな特色のひとつに、障害程度中度・重度の生徒のみで編成されている15名前後のクラス単独での校外学習ということがあげられる。そのため、他の校外学習のように健常児との混合で編成される25～30名前後のクラスの友だちがいないことで、生活面での自立・自主性を見直し・再構築・向上を促していくことができる。また、宿泊場所も一般客がいる公共の宿泊施設ではないので、そのアドバンテージを生かし、生活スキルの確認・練習に焦点を当てて施設・時間を有効活用することができる。

普段は混合教育のメリットである同年代のロールモデルがいることで、多少なりともヒントやサポートを得て活動していることでも、この研修ではリーダーやバディとして引っ張ってくれる存在がいないことや、健常児の友だちとの集団での動きや、そこから醸し出される雰囲気がないことから、自ら次の活動のことや、時間を意識して行動しなければならない機会が多くなる。教師側も生徒たちが自然と時間を意識し、周囲を観察して自分で考えて行動するように促すことができたり、意図的にそうなるように状況や環境を設定したりすることができる。結果として時間や行動への意識が高まり、また周囲への意識も高まる。それにより、視野も広がることから、今までになかったことに気がつくようになったり、考えられるようになる。

また、普段の校外学習では、学年や学校全体での動きや時間の制限があるため、彼ら自身が現段階で持っている生活スキルを周りのペースや状況・環境に合わせて活用・応用することに焦点を当てて指導が展開されている。しかしこの研修では、生活スキルの徹底指導や底上げ指導を展開することができる。具体的には、入浴・歯磨き・食事・衣服の調整・衣服の整理・荷物の管理・清掃・ベッドメイキング・レクリエーションスキルなど多岐にわたり、それぞれにおいて現段階の確認、スモールステップでの底上げ指導、新たな技術獲得への反復練習などが行われている。

これらのようにこの研修で得た経験や、学んだことを混合教育という環境で健常児たちとの生活の場に再び活用・応用していくことで、よりステップアップした日常生活を送ることができ、就労に向けてさらなる経験を積んでいくことができる。またそれらが就労後の社会での自立に向けての大きな一歩となっていく。このように、農業従事研修では生活面での教育的効果も得ることができる。

## (6) 今後の展望

本校を卒業した自閉症者の農業分野での就労の可能性を探求し、新たな職場開拓の足がかりとする。最終的には卒業後、希望者は『おやてっとのプロ』として生計を立て、ここに生活の基盤を築けるようなプランを描いている。



## 3-4 障害のある生徒の保護者向け研修会の実施状況とその成果

### (1) 目的

発達障害のある生徒の保護者を対象に、生活・学習等における指導上のさまざまな情報提供、情報交換に加え、卒業後の就労・社会生活に必要なスキルアップに向けての学びの場として、家庭と学校が協力し指導の効果を高めるための研修会である。また、今年度より全体会の中で進路指導部からの情報提供も行うことで、更に就労についての理解を深めていく。

当初、この研修会は母親研修会と称していたが、平成7年度より保護者研修会と名称を改め、開催日を土曜日に設定したことにより、父親の積極的な参加も年々増えてきている。

### (2) 第1回保護者研修会

①日時：5月20日(土) 9時10分～12時

②内容：校長の話

教育統括部長の話「保護者研修会の意義、就労に向けて」

進路指導部より情報提供

1学年：専門コースガイダンス

2学年：実習全般について

3学年：就労について

専門教科、担任より

③保護者からの感想

《1学年》

・義務教育の中学校までとはまるで違い、高等専修学校は就労に向けてのトレーニングの場なのだと思います。自己の障害をしっかりと理解し、出来ないことを自分の力でトレーニングし克服に向かわせることがとても重要であると学びました。

・まだ1年生と思うのではなく、目標を定めて進んでいく必要を感じました。今、手を抜くとツケは必ず後から回ってくる。この言葉を肝にも命じて頑張っていきます。

・就労に向けて良い所を伸ばしつつ、苦手なことをどんどんやらせてスキルアップさせていくことが大事だと思います。

・親の側ではなく、雇う側の気持ちになって子供を指導することが大切だと思います。

・入学して「義務教育が終わった」という事を思い知らされ、社会の玄関口にいるような感じがして気持ちだけが焦ります。

・初めての保護者研修会参加でした。心配事、気にかかっていたこと等についての内容でしたので、私にとって充実した会でした。

・就職できたら、めでたしめでたしではなく、それ以後が大切です。武蔵野東の先生方は卒業後のケアもされていると聞いて感動しました。

・全体会では、「本人がやりたい事ではない事をやらせる」という先生の言葉が心に残っています。就職後、言葉が話せるためのトラブルがあると伺い息子も気を付けていかねばと思いました。

《2学年》

・先生のお話をお聞きし、1年前を思い出しストライクゾーンが増えただろうかと考えました。実習や就労について進路指導部の先生方のお話を伺い、改めて我が子の現状を見つめなおし「今出来ることを今すぐやろう」と夫婦で話し合いました。

・3年生になる前のこの1年、冷静かつ具体的に指示して成長させていくことが大切だと思います。就労することに不安は大きいのですが、やるべきことを続けることを考えていく1年です。

・就労についてのお話は勉強不足でついていくのが大変でした。親のほうでも少しずつでも勉強したいと思っています。

・今年度から進路指導部からの情報があり、窓口の先生が明確になり親としては安心していきます。

・この1年間はとても大事だと思いましたので、これからも家での仕事でもあの手この手で子供をつついてできることを広げていこうと思います。

・先日の校内実習の反省がまだ心に重く残っているときに聞く研修会は、確かに1年前とは受け止め方が違いました。プラス何かは何を加えれば就労できるのか、課題はたくさんありますが、ひとつひとつ改善していきかないです。

《3学年》

・限られた時間、しかも私どもには残り1年もないので、必要な訓練をピンポイントでやっていくことを再確認しました。

・学校を出た後の未来を思い描き、考える機会となりました。3年生になり、来年は東を離れるのでこのような情報は大きな支えとなります。

・「世のために役立ち 人々に必要とされる社会人となる」「就労」についての分科会を通して強く校訓が響きました。

・就労後、仕事中にやってはいけない事、本人にとって癖になっていること等確認することが大切だと思います。

・まだまだ親も成長途中、息子が成長する以上に親も成長し、牽引しなければいけないと改めて思いました。

・今、目の前にある取り組みに懸命に向き合い、やりきろうと息子と話しました。今を頑張れない人は、これからは頑張れない。働く側の立場の人になれる様、ひとつ一つ経験を積み、トレーニングする機会の中で学んでいきます。そして愛される人間に親子でなれるよう取り組みます。

・目の前に迫っている進路、障害者手帳の更新、親としてまだ頑張らなければならないところを感じます。

④考察

・今年度より全体会の中に進路指導部からの情報提供を入れたことで、より多くの就労に関する情報を保護者に理解していただくことができた。

・学年ごとにこの保護者研修会に臨む保護者の意識に差があるように思われる。子供の成長のために、3年間という限られた時間を家庭と学校が協力し、どのように将来につなげていけるかが重要となる。

### (3) 第2回保護者研修会

①日時：6月24日(土) 9時10分～12時

②内容：校長の話

教育統括部長の話「お手伝いの基本スキル」

進路指導部より情報提供

グループディスカッション 卒業生の保護者のお話

専門教科、担任より

③グループディスカッション 卒業生の保護者の話より

【就労前について】

- ・企業か福祉かの迷いはありませんでした。7～8ヶ所作業所の見学へ行きました。物静かなタイプなため、大きな作業所では周りに埋もれてしまい、問題があっても見つけてもらえないのではないかと思い、職員の方によく見てもらえるような小規模(20人程度)のところを選びました。作業所を運営している母体の理念をしっかりと理解した上で、「息子にあってるか、自分が理念に共感できるか」で判断した。
- ・企業就労する場合は、こちらが会社を選ばません。先生方が子供の適正に合う所を探して、実習させていただきました。
- ・実習を3か所やらせていただきました。「就労支援センター」「生活介護」「就労継続AB型」

「障害支援区分」「重度判定」「相談支援」などの言葉を事前によく調べました。

- ・能力的に企業就労はとても難しいので、入学する前から福祉就労と決めていました。

【実習中について】

- ・企業就労の場合、会社は選ばません。3回違う場所に行き、1回目駐輪場の清掃の仕事、2回目高齢者デイサービス。その実習の時間にウトウトとしてしまったことが反省点。3回目の実習は1日で内定が決まりました。
- ・分からないときに質問して、自分で判断しないことを心がけさせました。
- ・修正能力が大切で、何度も同じ失敗を繰り返さないように、失敗したらメモして課題を明確にしました。

【お給料について】

- ・本人はお金の価値はわかっていますが、仕事をすればお金がもらえる→そのお金で好きなものが買えるということで、励みになっている様子です。給料でCD、DVDや好きなキャラクターのTシャツなどを買いたがります。年々給料は上がっています。
- ・お金に関して、6万円が手元にあり3万は貯金、袋に小分けにしています。一緒にご飯を食べに行っても会計を分けたりします。交通費、自分で定期購入など「お母さんが死んでも困らないように」という声掛けをしています。
- ・B型なので工賃は高くはありませんが、初めていただいたときは嬉しそうでした。出かけたときのお昼は自分で払うのが普通で、こちらが払おうかと言っても自分で払います。就労して良かったのは、今まで東の方としか接点がなかったから、いろいろな人と出会えて話ができて良かった。トラブルは想定外のことに對してパニックを起こすので、連絡帳に書かれますが、所長さんが止められないほどではないので、呼び出しは今のところありません。

- ・お給料は全て母が管理しています。1ヶ月のお小遣いは1万円、美容院代4,000円、昼食代1万4千円、本人「お金は大切なもの」、「触ってはいけないもの」という意識があります。

【就労後、気をつけていること】

- ・職場の人とのコミュニケーションのためにニュースを一生懸命みえています。スーツ交換のときにテレビをみている人がいたりしたら、そのテレビを見てきたりしています。(笑)帰ってきたらその内容を報告してくれたこともあり、コミュニケーションのためにはニュースを見ることは必要なことと思います。
- ・卒業して一番の仕事は、年金の申請をきちんと出すことです。各市町村によって違うのですが、今のうちから相談しておく、担当の人がいつから準備をすれば良いか教えてくれますので、早めの準備をするべきです。かかりつけのお医者さんにきちんと顔を出して、助言をいただいでください。
- ・親亡き後、本人が幸せに生きられるようにと思っています。後見人のことも勉強したいと思っています。土日は家に帰ってきていますが、土日も家に帰らずにグループホームにいるということを本人が納得できるようにしないといけないと考えています。アドバイスは、グループホームに19歳で入れる気は全くありませんでしたが、世話人さんにタイミングは難しいし、一日でも早い方が子どものためと言われて入りました。グループホームとの出会いはそうないから、話があったときにはよく考えた方がいいと思います。

【就労後の余暇活動について】

- ・移動支援を使い、ガイドヘルパーさんを事前に予約してどこかに連れて行ってもらうようにしています。今日はエリックカール展に行っています。そのほかは区報に載っている。障害の程度や年齢に分かれているのですが…青年学級が月に1度あります。自分の家の近くの公民館で、午前中～3時くらいまで参加しています。それ以外は家でアニメを見えています。
- ・家にいるときは、ピアノが少し弾けるので、ピアノを弾いたり、youtubeを見たり、音楽鑑賞をしています。手先の器用さを失わせたくないで、プラモデルを取り寄せてプラモデル作りもしています。三鷹市の障害者水泳教室に去年から行って、全く泳げなかったが、泳げるようになりました。愛読書は地図と時刻表で、あとは東の卒業アルバム、幼、小、中、高を持って歩いています。
- ・外でやること、中でやること、一人でやること、誰かと行うことに分けて教えています。父がクロスワードパズルを教え、今でも辞書で語句を調べて書いたりしている。弟から将棋やチェスを教えてもらい、ゲームなどと対戦して楽しんでいます。陸上部で学んだトレーニングなどを現在も行い、中央公園でもマラソンも日々欠かさず行っています。今でもマラソンを余暇として楽しめていることは、部活動のおかげだと思います。旅行、プール、釣り、電車周遊などはヘルパーさんなどと楽しんでいます。

【在学中にやっておいたほうが良いこと】

- ・なるべく多くのことを自分でやらせること。できないからと言って、その場で親がやってしまうと、本人の成長の芽を摘んでしまうことになります。最初からきちんとできなくても、根気強くやらせるようにしました。
- ・学校でできていることを家でも必ずやらせること。先生の努力を無駄にしない。
- ・入学する時、「先生から言われた課題を全部やろう」と意気込みました。後悔が残らないように。
- ・在学中は必死でした。あの頃頑張っていたから、今頑張れている。食器洗いは職業に直結しています。毎日

- ・やるものと時間があればやるものに分けてお手伝いをさせました。今の方が時間に余裕があるように思います。
- ・親子ともに大変な時期であると思いますが、今の努力が将来に繋がります。
- ・親が手をかけてできていたことが凄く多かったと思います。在学中はひとりで出来ることを増やして、本当に最初から最後まで一人で出来ることを増やしてください。自分の子供はみなさんかわいいと思いますが、子供扱いするのは子供と親のためにならないと思います。
- ・学校生活は貴重で掛け替えのないものです。1日1日をかみしめてほしいと思います。
- ・帰ってきたら色々な課題をやらせていました。今振り返るとヘトヘトだったなと思います。学校が忙しかったが故に今の仕事が楽と思えるようです。本人は今の仕事が生き甲斐であると言っています。
- ・お手伝いは一緒にやるという考えでした。男子より体力があると言われました。手伝いの後は、やったら褒めるようにしていました。
- ・お手伝いは大切です。生活スキルを上げることもそうですが、お手伝いをさせることで、親子の関係も良くなりました。障害児を育てていると、やはり大変なことが多く、愛情があるものの、ストレスがたまってしまうこともあります。しかし、本人が色々なお手伝いをやってくると、自分が楽になるし本人の力にもなっていく、笑顔で息子と向き合えるようになりました。父親よりよっぽど素直に家事に取り組んでくれて、本当に助かっています。

#### ④保護者からの感想

##### 《1学年》

- ・愛される人間であること、就労の決定と定着、また改めて自分を変えていく努力が必要であると感じました。卒業生の保護者のお話は、「明日は我が身」なので大変参考になりました。
- ・OB、OGのお母さま方のお話は、卒業されて間もないだけに、とても参考になりました。はさみなどの手先の練習、お金の管理まで考えて親としての責任として準備していこうと思います。
- ・OBのお母さま方からのお話は、学校や先生方との密な連携と連絡が大切だということが感じられました。
- ・卒業生の保護者からのお話が具体的でとても参考になり、聞けて良かったです。「お手伝いは最後の確認までが大事」とのことが心に残りました。
- ・卒業生の保護者のお話は、我が子と似た様子が伺えたため、ひとつ1つのエピソードが参考になりました。まずは、日々の生活をおろそかにしないようにしたいと思います。
- ・就労して既に6年目という事で、今までいろいろな苦労はあった様ですが、ここまで長く続けることができているのは、素晴らしいと感じました。
- ・卒業後の職場や住まいについてお話を聞くことができ、将来のイメージを持ち、準備することなど、日々の生活やお手伝いが大切なことだと思いました。

##### 《2学年》

- ・卒業生の保護者の皆様のお話では、トラブルの対処法、お金の管理、社会人としての心構えなど参考になることがたくさんありました。特に女性社員に対するマナー、家での手伝いで時間を守ること、終了の報告をすることがそのまま実社会に繋がっていくことがよくわかり、改めて今取り組んでいることを丁寧にしていこうと思いました。

- ・どのご家庭も様々な努力をされていたことがわかり、こちらも気持ちが引き締まりました。また実習先での具体的な失敗談も忌憚なくお話していただき、様々な気付きがありました。
- ・先輩のお母さま方のお話は、とてもリアルで自分たちと比べて、もっとここをこうしたほうがいいのかなど、この先やるべきことが具体的に見えてきたように感じます。
- ・先輩のお母さまが「3年間でやれることは全てやってきて悔いはない」と自信を持っておっしゃっていて、素晴らしいことだと思いました。
- ・卒業生の保護者のお話をお聞きして、卒業まで一日たりとも無駄にできないと思いました。どこまで伸ばすことができるかは、本人の力はもちろんですが、親のかかわりがいかに大事かということ強く感じました。
- ・先輩の保護者の方のお話で印象的だったのは、3年間で家事を完璧にするのに、毎日課題を次々と与え、親としても一番大変だったということでした。
- ・先輩のお母さまのお話は、内容が濃く生の声として本当にありがたいアドバイスばかりでした。就労までの心構え、10分前行動の定着、敬語や挨拶の徹底、女性への配慮、1週間分の衣服の準備等、どれをとってもなるほどと思うものばかりでした。

##### 《3学年》

- ・卒業生のお母さま方によるグループディスカッションは非常に参考になりました。仕事に対する真面目さと、一緒に働く方々から好かれることが大切だということが分かり、就職まで残された日々をどう過ごすべきかイメージできました。卒業しても会社とのやり取り、グループホーム、後見人、余暇の過ごし方、フォローなどやるべきことが沢山あり、東ロスになっている暇はなく、先生に見て頂けない分、私たち親が次のステップの成長へ導いていく必要があると感じました。
- ・東学園卒業後は「新しい環境に慣れること、必死になること」となり忙しい日々を送ることになると思いますが、それでも私は東ロスになってしまうタイプだと思いました。課題が沢山あり、これが一生続くのかと考えると、落ち込む事もありますが、先輩の保護者のように前向きに考え、良いところ楽しいことを見つけながら、親子で支えあって頑張っていきたいと思います。
- ・卒業生の親御さんの話では、特に基礎年金の手続きについて参考になりました。
- ・先輩方のお話を聞きながら、皆さん客観的にお子さんを見ており、親のスキルの力が子供の成長に大きく影響するのだろうと思いました。
- ・パネルディスカッションは我が子の将来と重ね合わせて聞くことができ、考えたことがなかった後見人のお話、グループホームの利用の仕方、お給料の使い方などとても勉強になりました。
- ・先生の話に「指導とは、わかりやすく砕いて、伝えること。そしてそれを繰り返すこと」「なんでできないの？」では伝わらないことを教えていただきました。

#### ⑤考察

- ・卒業生の保護者からの様々な具体的なアドバイスは大変有意義で、教員が日々伝えていることを裏付けることとなり、実際にアドバイスを実行した家庭も多くあったようだ。
- ・家庭でのお手伝いのポイントもより分かりやすく解説したので、今までよりお手伝いの質が向上した。

・進路指導部からの情報提供は「東京都知的障害特別支援学校 就業促進研究協議会」について、詳しく理解することができた。

#### (4) 第3回保護者研修会

①日時：10月14日(土) 9時10分～12時

②内容：校長の話

教育統括部長の話「実習に向けての家庭トレーニング、保護者の姿勢」

進路指導部より情報提供

講演「A型事業所の運営1年を振り返って」

株式会社 ベネッセソシアス

代表取締役社長 山口 元 様

専門教科、担任より

③「実習に向けての家庭トレーニング、保護者の姿勢」(レジュメの一部)

1

<お手伝いのステップアップ手順を教える>

スモールステップでの指導  
例:玄関掃除

1、靴を片付ける  
初歩:靴箱を整理しておいてあげましょう。  
中級:靴を出しておきましょう。  
上級:革靴磨きにステップアップ

2

大切なのは、

- ・修正指示が通る土壌があるか  
→ 労作内容の「やり方変更」をする
- ・「わかってはいるんですけど、、」と親が言葉の理解だけで終わるっていないか
- ・うちの子には無理だと諦めていないか

とにかくやらせてみるのが重要です。

3

<お手伝いのステップアップ手順を教える>

スモールステップでの指導  
例:全体

4、評価  
初級:行動動作に着手をしたことを大いに評価。  
中級:ボードなどを使用して、レベルアップを明示し要点確認。  
上級:曜日を変えて変化を持たせ、声かけなしで習慣性をつける。  
クオリティーを見て、評価をする。  
制限時間を設けて、徐々に短縮する。  
最上級:指導者なしでも完璧に行える。

4

今日の要点と指導の工夫

- ・関係ないなあ、と諦めないで
- ・繰り返し行うことで見つけられる「指導者の眼」
- ・VTRで自分を見つめる
- ・間違いを探り当てる現場をつくる
- ・ルーティンにしてもいいことと悪い事
- ・シンプルなルールを定着させる

④進路指導部より情報提供(レジュメの一部)

1

法定雇用率とは①・・・

障害のある方が、社会進出していく事を考える発端は、何と言っても、世界的に傷痍軍人の社会復帰が挙げられます。ですから、社会進出していく障害者のパイオニアは『身体障害』で、『身体障害』の公的支援の幅が最も広い訳です。『知的障害』の等級の目安が、目に見えるIQ値によるところが大きいですが、元々は公的交通機関を一人で活用できるか否かであった事から、その歴史が窺えます。

2

法定雇用率とは②・・・

障害のある方を、積極的に企業が受け入れていく為に、定められたのが、法定雇用率です。この障害者の雇用率は、雇用している障害のある方のポイント数を全従業員のポイント数で割ったものとなります。

1988年 1.6%  
1997年 1.8%(知的障害を加算)  
2013年 2.0%(精神障害者加算)  
2018年 2.2%(2020年度までに2.3%に)

3

障害者雇用納付金制度・・・

法定雇用率を下回る、障害者雇用不足ポイント数に応じて、【独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構】に、以下の様に納付する制度があります。

(障害者雇用納付金制度)  
常時雇用している労働者数が100人を超える障害者雇用率(2.0%)未達成の事業主は、法定雇用障害者数に不足する障害者数に応じて1人につき月額50,000円の障害者雇用納付金を納付しなければならない。

4

障害者雇用調整金・・・

機構では、事業主から障害者雇用納付金を徴収するとともに、その納付金を財源として障害者雇用調整金、報奨金、在宅就業障害者特例調整金、在宅就業障害者特例報奨金及び各種助成金の支給を行っている。

常時雇用している労働者数が100人を超える事業主で障害者雇用率(2.0%)を超えて障害者を雇用している場合は、その超えて雇用している障害者数に応じて1人につき月額27,000円の障害者雇用調整金が支給される。

⑤「A型事業所の運営1年を振り返って」(レジュメの一部)

1

20171014

ベネッセの障がい者雇用について

1. 企業を取り巻く障がい者雇用の状況
2. グループの障がい者雇用への取り組み
3. 就労継続支援A型事業所の1年を振り返って

(株)ベネッセビジネスミート 取締役 障害者雇用推進本部 本部長  
長 兼(株)ベネッセソシアス 代表取締役 山口 元

2

特例子会社制度 グループ適用

企業が障がい者の雇用に際し、特別に配慮した子会社を設立し、一定の要件を満たす場合、特例としてその子会社の労働者を親会社に雇用されているとみなし、関係する他の子会社も含め雇用率の算定ができる(グループ適用)

→ 障がいがあっても働きやすい業務や職場環境、配慮できる体制があることが最大のメリット

親会社  
意思決定機関の支配  
関係会社  
意思決定機関の支配  
関係会社  
営業上の関係  
出資関係  
役員派遣など  
特例子会社

一定の要件  
① 親会社との人的関係が緊密であること。(具体的には、親会社からの役員派遣等)  
② 雇用される障がい者が5人以上で、全従業員に占める割合が20%以上であること。また、雇用される障がい者に占める重度身体障害者、知的障害者及び精神障害者の割合が30%以上であること。  
③ 障害者の雇用管理を適正に行うに足りる能力を有していること。(具体的には、障害者のための施設の改善、専任の指導員の配置等)

3

ベネッセグループの障がい者雇用方針

ベネッセグループ企業理念 bene(よく) + esse(生きる) = Benesse 「よく生きる」

Benesse. それは、「志」をもって、夢や理想の実現に向けて一歩一歩近づいていく、そのプロセスを楽しむ生き方のこと。私たちは、一人ひとりの「よく生きる」を実現するために、人々の向上意欲と問題解決を生産にわたって支援します。そして、お客さまや社会・地域に支持され、なくてはならない企業グループを目指します。

ベネッセグループの「よく生きる」を実現する5つの事業領域  
国内教育 海外教育 生活 シニア・介護 語学・グローバル人材教育  
こどもちゃれんじ 進研ゼミ 進学ゼミ 高校講座 こどもちゃれんじ たまひよ 3歳ステップ 5歳ステップ  
ベネッセスタイルケアの領域  
ベネッセの介護のある暮らし  
ベネッセの学習クラブ  
ベネッセの保育園  
子どもたちの未来のために

4

ベネッセグループの事業領域

ベネッセグループの「よく生きる」を実現する5つの事業領域  
国内教育 海外教育 生活 シニア・介護 語学・グローバル人材教育  
こどもちゃれんじ 進研ゼミ 進学ゼミ 高校講座 こどもちゃれんじ たまひよ 3歳ステップ 5歳ステップ  
ベネッセスタイルケアの領域  
ベネッセの介護のある暮らし  
ベネッセの学習クラブ  
ベネッセの保育園  
子どもたちの未来のために

## ⑥保護者からの感想

### 《1学年》

- ・一般就労で7時間、福祉就労で6時間の勤務となり、働く意欲のある人、健康で生活リズムの整っている人、一人で通勤できる人、週5日働く体力がある人、責任を持って働くことができる人等、これから意識していかなければいけないと思いました。
- ・障害者雇用とは、一般就労、就労継続支援A型、B型と漠然としていたものが、今日のお話でやっと違いがわかりました。
- ・障害者雇用をしている事業者が、どの様な人物を雇用したいのか、必ずしも1番できる子を求めているのではなく、たとえ5番目でも素直な性格の人物を採用したいという考えが伝わりました。
- ・ベネッセ山口様の講演を興味深く聞かせていただきました。障害者雇用制度に対する企業の取り組みを、社長という立場の方から直接聞ける貴重な機会でした。障害児者それぞれのタイプやスキルによって合う就労先は違い、それを見極めることも大切で、スキルアップが次の段階へつながることもわかりました。
- ・企業の代表取締役が自らお話をしてくださることに、まず感動いたしました。企業側から見た雇用がどんなものか、具体的に聞くことができたこと、利用者の仕事に携わってよりよく考えてくださる姿勢にとても心が動きました。

### 《2学年》

- ・企業の障害者雇用率が上がっても、求められる人材でなければ雇用してもらう事は難しいのだという事が、今回のお話の中からよくわかりました。「先のことを考えて動ける人材」「素直な人材」の大切さを再認識することができました。日々の家庭の中でできる小さな積み重ねが将来につながるのだと思い、今まで以上に一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。
- ・ベネッセソシアスの一度社会に出た方々の受け皿にという事業の方向性もすばらしいもので、ベネッセの理念に改めて感服いたしました。
- ・今日の講演で一番印象に残っていることは、会社が求める人材要件についてでした。我が子は、まだまだ課題があると感じましたが、まずは基本的な元気な挨拶、返事を徹底させ、それから徐々に正確な作業力を身につけていく努力を続けていくべきだと思いました。
- ・普段聞けないような企業サイドの貴重なお話を含め、改めて残り半分の高校生活を無駄に終わらせていけないと痛感いたしました。
- ・A型事業所で働くことの厳しさや大変さもよくわかり、今後就労先を見極める上で、参考になりました。感謝しております。

### 《3学年》

- ・障害者の雇用についてこんなに真剣に考え、取り組んでいる企業があることを知りうれしく思います。企業側から見た素直はお話を聞いたことは大変貴重でした。
- ・講演をお聞きし「5番目の子を採用したい」という想いに感動し、このような会社がもっと日本に増えてくれたらと心から思いました。他の企業の障害者雇用のモデルになってほしいと思いました。
- ・ベネッセ様に限らず、企業は工夫をして雇用を作り出していると思いますので、子供が企業で働き、お給料

を頂く以上、ご期待に応えられるよう、自覚を持って働いていけるよう、日々の生活の積み重ねが大事だと思いました。

- ・東学園を卒業した後、先生方のご指導がなくなった中で、どれだけ他人に迷惑をかけず、役に立てる大人になるか、本人と常に話し合いながら生活していきたいと思います。
- ・仕事を好きに、与えられた仕事にやりがいを見出すことができる社会人になれるように、卒業までの6か月を大切に生活します。
- ・「お手伝い」がいかに大事であるかということを現場の方が力強く、メッセージとしてくださったことで更に実感しました。
- ・障害の軽重は違っても、一所懸命がんばる子ども、協力的な家庭こそ企業から求められている、お手伝いの重要性、段取り力の必要性、日頃先生方からお聞きしていることばかりでした。
- ・スモールステップでの指導、褒めることの繰り返しで習得させるというお話では、改めて自分の行いを反省いたしました。できないことを頭ごなしに怒ってしまう日々です。心に留めて接していきたいと思います。

## ⑦考察

- ・進路指導部からの情報提供により、法定雇用率について保護者の理解が深まった。
- ・ベネッセソシアスの山口様の講演では、各担任が日頃お手伝いの重要性を話していることを裏付けしていただく内容となった。
- ・企業就労するに当たり、企業が必要とする人材要件、仕事をするうえで基本的な心構え、スキルなどを再認識するいい機会となった。
- ・今回の講演をきっかけとして、日々の家庭でのお手伝いなどの取り組みが、更に充実したものになることを期待している。

## (5) 第4回保護者研修会

①日時：11月25日（土）9時10分～12時

②内容：校長の話

卒業生の職場での様子   ビデオ研修

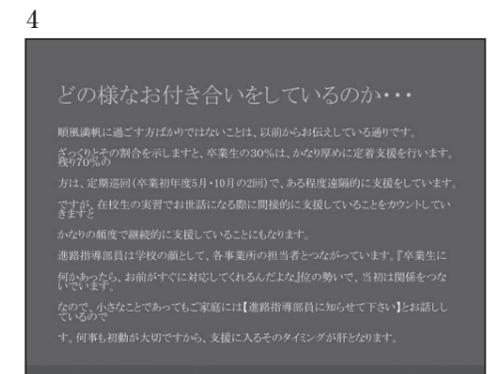
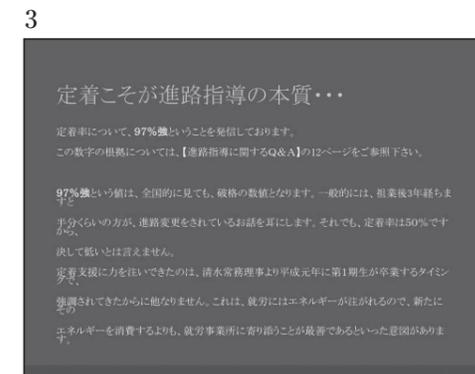
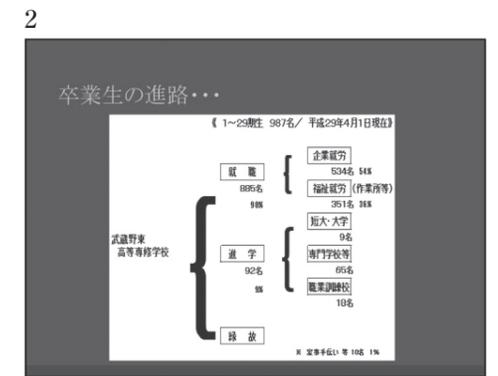
専門教科、担任より

卒業生の職場での様子



▲ 福祉就労

### ③「進路指導部からの情報提供」(レジュメの一部)



▲ 企業就労

### ④保護者からの感想

#### 《1学年》

- ・卒業生の職場での様子のビデオを見せて頂き、どの様な場所、内容なのかが分かり、とても参考になりました。これから本人にとってどのような仕事に向いているか、じっくり冷静に考えていきたいと思ひます。
- ・卒業生の職場での様子を見て、「今の息子に出来る仕事はない」「どうしよう」と焦りを感じています。できて当たり前が出来ない。それで仕方がないでは済まされないことを自覚しました。だからこそ、先生方は家でのお手伝いの大切さを伝えてくださっていたのだと思ひました。
- ・自分の息子にこうなってもらいたいと思う姿と現状が随分とかけ離れていることも、再認識し、乗り越える山が多いことを痛感しています。
- ・卒業生の皆さんのひたむきに働いている姿や笑顔がとても素敵でした。我が子も卒業後はあのような姿で働いていることを願ひ、日々努力していきたいと思ひます。
- ・卒業生の様子を見て、企業就労に求められるクオリティの高さに圧倒されました。障害があるにもかかわらず、健常に近いことを求められる中でみんなよく頑張っていると感心しました。

#### 《2学年》

- ・ビデオを見て、進路指導部の先生方一人ひとりへの想ひも感じられ、それがずっと続いて今の東があることを実感しました。本当に感謝いたします。
- ・卒業生の職場での様子を見て、半年前まで高校生とは思えないほどのしっかりした働きぶりに感動しました。我が子もその姿を目標に家庭でも努力を重ねていかなければ気が引き締まるばかりです。
- ・現在職場実習に行かせていただいているので、こんな感じで実習を頑張っているのかなとイメージしました。

また、知っている卒業生も多く、真剣な表情で働く姿を見て、半年くらい前までは学生だったのに立派な社会人になっていることに本当に感心しました。

・クラス懇談では職場実習における注意事項について、具体的にご指導いただきありがとうございました。ご指示されたことを理解し行動できるかという事を、家庭で厳しく見ていきたいと思えます。

・自分の息子が一年半後には同じように社会で働いている姿を考えると、喜びも半分ですが、やはり不安も半分以上あります。千日の修業の半分を終え、一層気を引き締めて時間を無駄にはしてはいけなと改めて思いました。

### 《3学年》

・毎年楽しみにしている卒業生のビデオですが、今年はよく知っている顔も多く、いつも以上に立派な姿に感動しました。丁寧に掃除している姿やスピーディーに作業する様子は我が子も少しでもそうなるといいなと、憧れの想いで観させていただきました。

・卒業生が具体的に働いている所もほぼ全員みられるなんて凄いです。先生方が私たちの理解のために、撮影と編集はとても根気のいる作業だったと思います。一人ひとりの生徒さんの状態をしっかりと把握してのナレーションは圧巻でした。

・武蔵野東学園入学当初は、仕事に就くことができるか心配でしたが、先輩方の頼もしい姿を拝見し、社会人としてまわりの人から必要とされる人間になれるよう親子ともども頑張ろうという気持ちを改めて感じました。

・卒業生の職場での様子を拝見するたびに「就労に向けて、何を家で行っていけばいいのか」等を考える良い機会となりました。

・1年後に息子も同じように生き生きと働いてくれる事を切に思い、あと数か月何をすべきかを改めて考えてみたいと思えます。

・進路指導部の先生方からの情報は、毎回具体的で大変参考になります。「仕事の定着」がどんなに大切な事かを知る良い機会でした。

### ⑤考察

・卒業生の職場での様子のビデオは、仕事のイメージをもち、具体的に身に付けるべきスキルを理解する良い機会となった。また、更に家庭でのお手伝いの質と量を上げていくことが期待される。

・お手伝いに関するスモールステップによるアプローチは説明し、よく理解でき良かったという感想が多かった。これを実際に各家庭で実行し、子供の成長に繋げられるかが課題である。

## (6) 第5回保護者研修会

①日時：2月3日(土) 9時10分～12時

②内容：校長の話

教育統括部長の話「保護者研修会のまとめ」

OB会の活動と入会についての説明

専門教科、担任より

## ③レジュメの一部「保護者研修会まとめ」

1

**1、家庭での“お手伝い”・復習**

(1) 手伝い内容を決定する  
・仕事は作るもの(適した仕事を作り出す)  
ex 玄関掃除 風呂掃除 紙ナプキン折り トイレ掃除  
広告仕分け 古新聞折り 靴磨き  
＜10分だけでも継続して行う＞

(2) 時短の意識定着  
・設定時間を明確にする 100円タイマーの利用  
＜時間の減算を目で見えて感じ、感覚を養う＞

(3) ミスムーブを意図的に入れる  
・ゴミを落とす 逆向きにする 一緒にやって間違える  
＜ミスや間違いの指摘によって意識付けする＞

2

**1、家庭での“お手伝い”・復習**

(4) 状況判断力を養う  
・一定ルーティンからの脱却  
曜日判断 天気判断 食事内容判断 時間判断  
＜条件付けを多様化すれば幅が広がる＞

(5) 朝時間の有効活用  
・湯を沸かす 花に水をやる ゴミ箱をまとめる  
＜朝のゆとり時間を体感し日常化する＞

(6) 褒めるばかりは、褒められ慣れる  
・失敗や成功はオーバーアクションで表現する  
＜叱られた後に褒められれば喜び倍増＞

3

**1、お手伝いを分析する**

お手伝いは2つに分類することができる

A：ある一定のやり方で一人黙々と行う  
“わが道を行くタイプのお手伝い”

B：周囲の状況や指示を聞いて行動選択する  
“状況・指示判断タイプのお手伝い”

4

**体育理論的に分析すると・・・**

Aタイプお手伝い→クローズドスキル  
相手に向き合わず対応動作は不必要であり、  
正確で安定した動作を個人で行う  
(射撃・弓道・体操・陸上競技・ボウリング・水泳等)

Bタイプお手伝い→オープンスキル  
常に相手の動きや指示に対応しなければ  
ならない技能が必要な運動  
(柔道・剣道(相手がいる)サッカー・野球(集団球技))

## (7) 合同保護者研修会

### 1. 第1回合同保護者研修会

①日時：4月17日(月) 10時～12時 (武蔵野東中学校 体育館)

②内容 むらさき会顧問 清水先生よりあいさつ

むらさき会長あいさつ

各園校より(幼・小・中・高・教育センターの順で)

自閉児進路アドバイザー 「進路指導に関するQ&Aについて」

むらさき会より伝達事項

役員紹介 会計報告、事業目標案、会則変更、むらさき運動会 など

連絡事項 サマーキャンプについて

### 2. 第2回合同保護者研修会

①日時：9月11日(月) 10時～12時 (武蔵野東中学校 体育館)

②内容 むらさき会顧問 清水先生よりあいさつ

むらさき会長あいさつ

『障害者福祉課の窓口で相談できること、対応できること』

司会 今城 慎一郎（武蔵野東高等専修学校）

パネリスト 武蔵野市障害者福祉課 係長 馬庭 和子さま

三鷹市障がい者支援課 障がい者相談係 係長 岩松 国一さま

西東京市障害福祉課 サービス支援係 係長 林 真輝さま

各園校からの報告

むらさき会より伝達事項 連絡事項 サマーキャンプの報告

③「障害者福祉課の窓口で相談できること、対応できること」（レジュメの一部）

1

2

3

4

3. 第3回合同保護者研修会（予定）

①日時：1月15日（月） 10時～12時（武蔵野東中学校 体育館）

②内容 むらさき会顧問 清水先生よりあいさつ

むらさき会長あいさつ

講演 「福祉的就労の実際と新たな障害福祉サービスについて」

講師：武蔵野東高等専修学校 自閉児進路アドバイザー 和田忠雄

各園校からの報告

むらさき会より伝達事項

連絡事項

③「福祉的就労の実際と新たな障害福祉サービスについて」（レジュメの一部）

1

**1. 福祉就労とは**

【生活介護】

常に介護を必要とする人に、昼間、入浴、排せつ、食事の介護を行うとともに、創作的活動又は生産活動の機会を提供します。

→実際は、、、

日中活動の柱を何にするのか、事業所によって異なります。

- ・工賃の頂ける作業(仕事)を行っているところも多い
- ・作業(仕事)の中には地域に出るという事も含まれる
- 地域清掃・資源(缶・紙パック等)回収 等々
- ・アート・調理・フラワーアレンジメント・紙芝居 等々
- 作業にプラスして取り入れている
- ・作業に向くことが難しい方の場合の活動もある

2

**1. 福祉就労とは**

【自立訓練】

自立した日常生活又は社会生活ができるよう、一定期間、身体機能又は生活能力の向上のために必要な訓練を行います。機能訓練と生活訓練があります。

現在、自立訓練(特に生活訓練)事業を行っている事業所は少ない。

2年間の年限があり、最近では自立訓練(2年)+就労移行支援(原則2年)を組み合わせて「福祉型大学」と銘打っている事業所もある。

訓練の内容は様々で、工賃を頂ける作業から諸活動まで、幅広い。

3

**1. 福祉就労とは**

【就労移行支援】

一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。

→実際は、、、

原則2年間の年限があり、訓練内容も様々。

実際の作業(仕事)を通しての訓練やいろんなツールを使った訓練を行っている。

「訓練内容=就労先の業種」と思われがちだが、訓練で学んでいることは挨拶・返事・報連相・ビジネスマナーであるので、業種も様々である。

※多機能型事業所と就労移行支援事業のみを行っている事業所での違いが多少ある

4

**1. 福祉就労とは**

【就労継続支援A型・B型】

一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。

雇用契約を結ぶA型と、雇用契約を結ばないB型があります。

→実際は、、、

【A型】

原則、雇用契約を結んでの障害福祉サービスの利用。

都内に約100カ所のA型事業所があるが、知的・自閉症の方の受け入れをしている事業所は少ない。

本人達へも「仕事」という意識の高さを求められるところが多い。

(8) まとめ

今年度も本校単独での保護者研修会を年間5回、学園全体での合同保護者研修会を年間3回、計8回実施した。研修会をとおして、保護者は大変多くのことを学ぶ良い機会となると共に、教員との情報交換の場にもなっている。また、今年度より全体会のなかに進路指導部からの情報提供を入れることで、就労についての最新情報、過去のさまざまな事例などについて、より理解を深め日々の教育に還元できた。また、在学中3年間この保護者研修会（通算 保護者研修会15回、合同保護者研修会9回）に参加し研修を積み重ねることにより、我が子を社会に送り出す準備を整え、意識を高めることができる。具体的には以下のようなメリットがある。

- ・クラスの様子を知る
- ・家庭課題の取り組み方を具体的に知る
- ・専門教科の様子を知る
- ・就労に向けての意識づけができる
- ・就労に向けて様々な情報を得る
- ・専門の外部講師から情報を得る
- ・卒業生の保護者から直接話を聞く
- ・教員との絆が深まる など

以上のことが生徒の成長に繋がっていると確信している。

(※保護者研修会に万が一欠席した場合は、ビデオ研修を行い担任が個別に面談を持つこととしている。)

## 第4章 まとめと課題

本校は、本学園内にある中学校で学ぶ自閉症を中心とした発達障害の生徒のために社会自立を目指した最終教育現場として開校した。広く公立の中学校を中心に健常な生徒を受け入れ、混合教育を実践し、高等専修学校としての職業教育を推進してきている。これまで社会に送り出した発達障害のある卒業生は、987名（平成29年4月1日現在）を数える。本事業では、これまで積み重ねてきた就労支援および卒業後の定着フォロー支援の成果を表し、全国の高等専修学校を中心として本校の取り組みを普及することを目指して推進してきた。

本書において、本校の就労支援および卒業後の定着フォロー支援の概要とその成果について取りまとめたものである。第2章は、本校の発達障害のある生徒の進路指導の概要と今年度の就労支援および定着フォロー支援の状況報告を記した。第3章は、本校における独自の教育支援である①チャレンジショップでのインターンシップ②校内実習③農業従事研修④保護者研修会の取り組みを紹介している。それぞれの取り組みにどのような効果があるのかを実証するべく、生徒、保護者を対象に取り組みごとに毎回感想や意見を求め、整理してきた。生徒、保護者からの声を聞くことによって、その成果が明らかになり、その必要性の裏付けになったと確信している。故に、当該生徒の教育支援をしていくにあたって、保護者への支援を並行して実施することが重要であるということを強調しておきたい。各校の状況に合わせて、研修会での対応、個別での対応などを検討していただき、これらの取り組みをヒントとして、各校に在籍する生徒・保護者への対応に役立てていただきたいと願っている。

最後となるが、この成果報告書での取り組みとは別に、成果物として発達障害のある卒業生の就労の様子を映像におさめたDVDが完成している。本事業の構成機関およびこれまで本校の進路指導に理解をいただいている企業、福祉事業所にご協力をいただき、発達障害のある方々が就労先でどのような働きをしているのか、企業就労・福祉就労ごとに幅広くその実際を表すことができた。これは生徒・保護者・教員への教材であると同時に、当該生徒の就労先を開拓していく際のアイテムとしての活用も想定して制作したものである。全国の高等専修学校で学ぶ当該生徒の就労支援の参考資料として進路指導の一助になるよう、さらには発達障害のある方々の就労の門戸が拡大されることを強く願っている。また、昨年度の事業において、これまで積み重ねてきた経験から有効な事例を取りまとめた「就労・定着フォロー支援事例集」を成果物として完成させている。事例集も併せて活用していただけると、さらに有効な取り組みができるものと確信している。

さらに、本校では本事業と別に「混合教育の教育効果の実証と普及・啓発及び発達障害など特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラムの開発・実証事業」にも取り組んできた。是非とも2事業の取り組みの成果を合わせて目をとおしていただくことを切に願う。

本事業は、平成27年度から継続して、3年という節目を迎えた。この3年間の取り組みが全国の高等専修学校で学ぶ当該生徒の就労に結びついていけるように、この取り組みを継続的に発信し、普及を目指して取り組む所存である。